

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 9 年度

1999.2

香川県教育委員会

例　　言

1. 本書は、県内における平成9年度の埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡ごとに示し、文化財保護法に関する届出等については一覧表（P.4～P.21）に示した。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委主体の調査の順とした。配列はそれぞれ原則として西から東の地域への順とした。
5. 香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡については、各市町の了解を得て県教育委員会で作成・収録した。
6. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1地形図を使用した。
7. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課がおこなった。

目 次

1. 平成 9 年度埋蔵文化財保護行政の動向	1		
2. 平成 9 年度埋蔵文化財保護行政、調査の状況	4		
文化財保護法に関する届出等			
I 遺跡発見の届出・通知（57条の 5・6）	4		
II 埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の 2・3）	4		
III 埋蔵文化財発掘調査の届出（57条）	8		
IV 埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の 2）	8		
V 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査	14		
VI 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況	18		
発掘調査の概況			
(1) 権の助遺跡	22	(25) 快天山古墳	60
(2) 盛土山古墳	23	(26) 陶畠遺跡	61
(3) 川津六反地 II 遺跡（仮称）	25	(27) 中間東井坪遺跡	62
(4) 国分台遺跡	27	(28) 筑城城跡	63
(5) 上新開塚	29	(29) 今岡古墳	64
(6) 木太本村 II 遺跡	30	(30) 香西南西打遣跡・鬼無藤井遺跡	65
(7) 城の内遺跡	32	(31) 香西南西打遣跡	67
(8) 成重遺跡	33	(32) 西ハゼ土居遺跡	68
(9) 塩屋川北遺跡	37	(33) 高松城跡（西内町）	69
(10) 富岡古墳群	38	(34) 史跡高松城跡（地久櫓）	70
(11) 宮山窯跡	40	(35) 高松城跡（東の丸）	71
(12) 宗吉瓦窯跡	41	(36) 東中筋遺跡	72
(13) 史跡有岡古墳群（野田院古墳）	43	(37) 浸仏遺跡	73
(14) 北山・上田遺跡	44	(38) 宮尻上遺跡	76
(15) 北山楠神社塚古墳	46	(39) 大池遺跡	77
(16) 町代 2 号墳・町代遺跡	47	(40) 木太中村遺跡	78
(17) 中の池遺跡	48	(41) 史跡天然記念物屋島	79
(18) 田村廃寺跡（田村遺跡）	50	(42) 新田・本村遺跡	83
(19) 史跡丸亀城跡	51	(43) 奥の坊現前遺跡	84
(20) 西内遺跡	53	(44) 西谷浦遺跡	85
(21) 前谷古墳・上川井遺跡	54	(45) 池戸鍋渕遺跡	86
(22) 東原遺跡・遠田遺跡	55	(46) 極楽寺墳墓群	87
(23) 西長尾城跡	57	(47) 寺田・産宮通り遺跡隣接地	88
(24) 椎尾東遺跡	59		
3. 平成 9 年度 財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査概況			
(1) 県事業に伴う調査状況	89		
(2) 県道・河川事業に伴う調査状況	90		
(3) 横断道事業に伴う調査状況	91		
(4) 国事業に伴う調査状況	94		

1. 平成9年度埋蔵文化財保護行政の動向

1.はじめに

香川県教育委員会では、平成8年度に引き続き、国及び県の各種開発事業予定地の試掘調査を国庫補助事業等で実施するとともに、小規模な事前の発掘調査を実施した。県教育委員会が実施した試掘調査は24件、事前の発掘調査は7件あるが、ほかに専門職員の配置されていない町において、県教育委員会指導のもと実施した調査が3件ある。

また、大規模な発掘調査とこれに伴う整理作業については財香川県埋蔵文化財調査センターに委託し、33遺跡・38地区で約12万m²の発掘調査を実施するとともに、過去に発掘調査を受託した遺跡のうち7遺跡の整理作業と5遺跡の報告書印刷をおこなった。

一方、市町においては県下全体で31件の試掘調査を実施したが、そのうち3件は県教育委員会指導のもと実施した。また、発掘調査については、開発事業等に伴う事前調査があわせて20件ある。

2. 埋蔵文化財保護体制の整備

香川県では、平成7年度から本格的に始まった四国横断自動車道（高松～高松間、津田～引田間）の建設事業に伴い、近年特に高松市以東地域での調査件数が増加している。なかでも大川郡（東讃地域）では、これまで基幹交通網の整備が遅れ、大規模な開発事業が少なかったこともあり、特に大内町以東の県東端部では大規模な調査があり実施されていなかった。しかしながら、高速道路の整備に伴い、民間を含めた開発事業数は飛躍的に増加する傾向にあり、今後各市町においては、開発事業の早期把握に努めるとともに、人的措置を含めた埋蔵文化財保護体制の充実が急務である。

香川県教育委員会では四国横断自動車道建設に伴う大規模な埋蔵文化財発掘調査に適切に対応するため、平成9年度に新たに3名の専門職員を採用し、埋蔵文化財保護体制の充実を図っている。そのため平成9年度末における香川県の埋蔵文化財保護体制は、県教育委員会文化行政課の埋蔵文化財担当職員3名（専門職員2・教員1）、財香川県埋蔵文化財調査センターの調査担当職員41名（専門職員22・教員19）の合計44名である。また、市町の埋蔵文化財専門職員については、高松市で1名の増員を図ると共に、大川郡8町で組織する大川地区広域行政振興整備事務組合で1名減員となったことから、全体で5市8町に配置されていることになる。これに大川地区広域行政振興整備事務組合を含めると県下全市町に対する埋蔵文化財職員の配置率は46%となる。しかしながら、依然として半分強の町に専門職員が配置されておらず、埋蔵文化財保護体制の充実について残された課題は多い。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	44名	観音寺市	1名	多度津町	1名
高松市	4名	寒川町	1名	高瀬町	1名
丸亀市	1名	三木町	1名	三野町	1名
坂出市	1名	綾南町	1名	豊中町	1名
普通寺市	1名	綾歌町	1名	大川広域	2名
				合計	62名

3. 開発事業の動向と発掘調査の状況

県下における開発事業については、四国横断自動車道の整備事業及びサンポート高松整備事業、インテリジェントパーク整備事業等、昨年度以前から継続して実施されている事業が本格化している。四国横断自動車道については、高松～高松区間での工事が本格化するとともに、発掘調査も並行して進められている。津田～引田間にについては、用地買収が順次進行し、今年度から大規模な発掘調査となっている。一方、サンポート高松整備事業については高松駅を中心とした土地区画整理事業が本格化し、今年度はそれに伴う事前の発掘調査を実施している。このような状況下で、新規の大規模プロジェクト事業は減少傾向にあるものの、前述の大規模事業に伴う工事は今年度以降もしおり本格化し、それに伴う関連事業が急激に増加しつつある。特にこれまで基幹交通網の整備が遅れていた東讃地域は高速道路の整備を意識した各種開発事業が急激に増加しており、適正な埋蔵文化財の保護を図るうえで注意を要する地域である。

このような多岐にわたる開発事業の増加に伴う埋蔵文化財発掘調査及びそれに伴う事務量は、増加の一途をたどっており、次年度以降もこの傾向が続くことが予想されることから今後、県・市町を含めた大きな枠組みの中で人的措置を含めた新たな取り組みが必要である。

4. 史跡等の保存と活用

今年度、埋蔵文化財に係る新たな国・県の史跡、重要文化財の指定はなかったが、国庫補助による史跡整備事業として、丸亀市の国史跡丸亀城跡及び普通寺市の国史跡有岡古墳群（野田院古墳）の保存修理事業が実施された。また、史跡整備を前提とした確認調査が三野町史跡宗吉瓦窯跡で実施されている。

史跡丸亀城跡では、現状で最も石垣の傷みが激しい三の丸大手口東側石垣の修理に伴う発掘調査を実施し、当時における石垣の構築・維持の方法を知るうえで重要な成果を得ている。また、石垣基底部の調査では地中に6段以上石垣が埋まっていることを確認したほか、その角石までも割れている個所があり、角石に不均衡な荷重がかかっていることが判明した。次年度以降に石垣の積み直し等の本格的な修復作業に入る予定である。

史跡有岡古墳群（野田院古墳）の保存修理事業は、今年が初年度にあたり、整備の基礎的資料を得るために確認調査を実施している。以前から確認されていた埋葬主体部に隣接して同規模の竪穴式石室が検出されたのは大きな成果である。

史跡宗吉瓦窯跡では、整備を前提とした調査を昨年度から実施しており、今年度の目的であった工房跡の確認はできなかったものの、15号窯跡上方で排水溝を検出すると共に15号窯跡の床面の一部を精査して階段構造を確認する等の貴重な成果を得ている。

5. 発掘調査の成果

旧石器時代については、全国的にも著名な国分台遺跡において、施設設置に伴う試掘調査が実施された。既に大きな地形の変更を被っていたため、造構や良好な包含層は検出できなかった。

縄文時代については、明確な集落跡を示す遺跡の調査は実施されていない。ただ、大内町原間遺跡では自然流路の最下層から晩期中葉の土器片及び石器等が出土しており、周辺に当該期の集落跡が存在していたことを示唆することとなった。

弥生時代では白鳥町成重遺跡、綾歌町佐古川・窪田遺跡の調査があげられる。

成重遺跡は、白鳥平野を北流する湊川による氾濫原が及ばない東側一帯に広がる遺跡で、弥生時代中期前半～後期末に至る遺構・遺物が多数検出されている。特に集石墓・方形周溝墓・土器棺墓・土壙墓等に代表される墓域については中期～後期に至るまで豊富なバリエーションを持ち、広範囲にわたり継続して形成されたようである。その中でも特に注目されるのは、湊川が運んだ手近にある礫を用いて築造した集石墓で、弥生時代中期中頃まで遡る集石墓も2基検出されていて、当該期の墓制の地域性を明らかにするうえで貴重な調査成果といえる。佐古川・対田遺跡は、綾歌町を流れる中大東川の東側一帯で確認された遺跡で前期後半～末葉を中心とする墓域及び後期初頭の竪穴住居等が検出されている。その中でも特筆されるのは前期末葉を中心とする円形・方形周溝墓であわせて25基検出されている。前期の周溝墓がこれほど集中して確認される例は全国的にも僅かで、その規模・形態にも格差がみられることから、周溝墓の構造等を探るうえで欠かせない資料である。

古墳時代では高松市長崎鼻古墳で範囲確認調査が実施されている。同古墳は屋島の先端部に位置する前方後円墳で、調査の結果、前方部前面で1段、後円部で3段の葺石が認められ、全長が約45mに及ぶことが確認された。一方、多度津町に所在する県指定史跡盛土山古墳でも範囲確認調査が実施され、円筒埴輪片を含む二重の周溝が検出されており、同墳の築造時期・規模等を知るうえで重要な成果を得ている。

古代では、飯山町で確認された東原遺跡・遠田遺跡の調査が挙げられる。試掘調査ではあるが、1m内外の大きさの掘り形をもつ大型の掘建柱建物跡が随所で確認されており、その範囲も広範囲に及ぶことが推定される。また北方には古代寺院として著名な法勅寺跡が隣接しており、その築造勢力と密接な関係をもった有力豪族の建物跡群であった可能性が高い。一方、高松市木太本村Ⅱ遺跡では8世紀の井戸の調査を実施しており、小規模な調査で遺跡の全体は不明であるが、奈良時代の弘福寺領比定地に隣接することから、調査の意義は大きい。また、高松市上新聞塚では8世紀の火葬墓が調査され、骨壺を埋納した石組み遺構が検出されている。県内における火葬墓の調査は、これまで希少で当該期の埋葬形態を知る貴重な成果である。

中世では、高松市西打遺跡、香西南西打遺跡の調査があげられる。ともに本津川下流域の西側一帯に所在し、あわせると3haを超える大規模な調査が実施されている。このような広大な面積の調査の結果、当該期の田畠等を含めた集落全体の様子が判明し、当時の条里地割とそれに規制された集落及びその土地利用の変遷が明らかになりつつある。このような成果を踏まえ、今後高松平野西部における中世村落の動態がより正確に把握されることが期待される。

近世では高松市に所在する史跡高松城跡周辺の調査が実施されている。近年、西の丸町で大規模な調査が実施され、城内の変遷及びその生活を知るうえで貴重な成果が得られているが、今回実施された小規模な調査でも複数の遺構面が所在することが判明し、これまでの成果と同様に、江戸時代全般にわたって譜請が繰り返されたことが判明している。

2. 平成9年度 埋蔵文化財保護行政、調査の状況

文化財保護法に関する届出等

I 遺跡発見の届出・通知（57条の5・6）

番号	位 置	原 因	発 見 者
1	三豊郡山本町辻	河川	觀音寺土木事務所長
2	高松市御厨町2094	農業関連	小田奈良須両池土地改良区 理事長 漢訪 博文
3	坂出市川津町4941-1、4940-1、4940-5	道路	坂出土木事務所長
4	木田郡三木町大字池戸1407-1、1411-2	農業関連	木田郡三木町土地改良区 理事長 石原 敏
5	高松市木太町字本村1347番3	河川	高松土木事務所所長 小笠原武司
6	大川郡大内町水主37	農業関連	大川土地改良事務所所長 前田 耕司

II 埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の2・3）

番号	遺跡の名称	遺 跡 の 所 在 地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	田中佐古遺跡	木田郡三木町大字田中1734	集 落 跡	弥生	9教文発第15-1号
2	小谷1~3号窯跡 塚谷1~2号墳	木田郡三木町字井上	生 産 遺 跡 墳	古墳	9教文発第15-2号
3	浦山古墳群	綾歌郡綾南町大字小野甲314	古 墳	古墳	9教文発第15-3号
4	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶4179番地2	集 落 跡	中世	9教文発第15-4号
5	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶5750-1他	集 落 跡	平安～中世	9教文発第15-5号
6	北山八坂古墳 八坂墳墓群	大川郡長尾町造田是弘1215-1	古 墳	弥生～古墳	9教文発第15-6号
7	吉野下・秀石遺跡	仲多度郡満濃町吉野下460番地	集 落 跡	古墳～奈良	9教文発第15-7号
8	空港跡地遺跡	高松市林町2217番ほか	集 落 跡	弥生～近世	9教文発第15-8号
9	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上1009ほか	集 落 跡	绳文～弥生	9教文発第15-9号
10	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原中村1171	集 落 跡	弥生	9教文発第15-10号
11	始覺寺跡	木田郡三木町池戸	社 寺 跡	平安	9教文発第15-11号
12	住屋遺跡	大川郡大内町184-1ほか	集 落 跡	古墳	9教文発第15-12号
13	西ハゼ土居遺跡	高松市西ハゼ町	集 落 跡	弥生・中世	9教文発第15-13号
14	高松城跡	高松市西の丸町	城 館 跡	近世	9教文発第15-14号
15	西打遺跡	高松市鬼無町藤井	集 落 跡	弥生・平安	9教文発第15-15号
16	佐古川・ 塚田遺跡ほか	綾歌郡綾歌町栗熊西ほか	集 落 跡	弥生～中世	9教文発第15-16号
17	多肥松林遺跡	高松市多肥上町1214ほか	集 落 跡	弥生	9教文発第15-17号
18	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町1492ほか	集 落 跡	弥生・奈良	9教文発第15-18号
19	高松城跡	高松市西内町	城 館 跡	弥生～奈良	9教文発第15-19号

発見日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香川県文書番号・日付
平成9年5月19日	集落跡	弥生～古墳	発掘調査 慎重工事	9教文発第16-1号 平成9年6月13日
平成9年3月11日	集落跡	弥生	工事立会 慎重工事	9教文発第16-2号 平成9年4月1日
平成9年3月1日	集落跡	弥生	発掘調査	9教文発第16-3号 平成9年7月7日
平成9年6月6日	集落跡	弥生	慎重工事	9教文発第16-4号 平成9年7月11日
平成9年6月13日	集落跡	奈良	発掘調査	9教文発第16-5号 平成9年7月9日
平成9年11月25日	集落跡	弥生・中世	慎重工事	9教文発第16-6号 平成10年1月8日

事業目的	事業主体	事業面積	事業期間	指導内容
農業関連	香川県	12,000m ²	8・6・19～9・3・15	発掘調査
その他の開発	香川県	200,000m ²	9・3・20～13・3・25	発掘調査
その他建物・宅地造成	脇宮神社	1,500m ²	8・10・1～12・12・1	工事立会
住宅・宅地造成	村松秀義	500m ²	9・4・14～9・9・30	工事立会
道路	香川県	200m ²	9・5・1～10・1・9	慎重工事
その他の開発開発	長尾町	23,000m ²	7・10・30～9・1・31	発掘調査
道路	建設省	3,000m ²	8・9・1～9・3・31	発掘調査
学校	香川大学	6,000m ²	10・1・1～13・2・28	発掘調査
公園造成	丸亀市	3,900m ²	9・5・1～10・3・25	発掘調査
学校	香川県	57,000m ²	9・7・1～12・3・31	発掘調査
農業関連	香川県	8000m ²	9・6・1～10・3・31	工事立会 慎重工事
道路	香川県	3,000m ²	9・7・1～10・3・31	発掘調査
道路	高松市	4,000m ²	9・5・1～9・10・31	発掘調査
土地区画整理	香川県	4,600m ²	9・5・1～10・3・31	発掘調査
その他の開発	香川県	25,600m ²	9・5・1～12・3・31	発掘調査
道路	建設省	150,000m ²	9・5・30～10・3・31	発掘調査
道路	香川県	7,000m ²	未定	発掘調査
道路	香川県	5,000m ²	未定	発掘調査
その他建物	香川県高等学校教育振興会	400m ²	9・7・1～9・7・30	工事立会

番号	遺跡の名称	遺 跡 の 所 在 地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
20	香西南西打遣跡 鬼無藤井遺跡	高松市香西南町地内 高松市鬼無町藤井地内	集 落 跡	弥生～近世	9教文発第15～20号
21	松並・中所遺跡	高松市松並町935-4ほか	集 落 跡	弥生～中世	9教文発第15～21号
22	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶4181-2	集 落 跡	中世	9教文発第15～22号
23	西明寺裏遺跡	綾歌郡綾上町粉所西甲1296ほか	集 落 跡	弥生～中世	9教文発第15～23号
24	農学部遺跡	木田郡三木町池戸2393番地	集 落 跡	弥生～中世	9教文発第15～24号
25	汲仏遺跡	高松市多肥下町1262-1	集 落 跡	弥生～平安	9教文発第15～25号
26	香西南西打遣跡	高松市香西南町	集 落 跡	中世	9教文発第15～26号
27	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上992-1ほか	集 落 跡	绳文～弥生	9教文発第15～27号
28	西村遺跡	綾歌郡陵南町大字陶4193-1	集 落 跡	平安～中世	9教文発第15～28号
29	東赤坂古墳	香川郡香川町大字浅野2410	古 墳	古墳	9教文発第15～29号
30	上新聞塚	高松市岡本町上新聞4-1	その他の墓	奈良	9教文発第15～30号
31	新田本村遺跡	高松市新田町641番2ほか	集 落 跡	平安～近世	9教文発第15～31号
32	矢野池遺跡	丸亀市郡家町字八幡上2165	散 布 地	奈良	9教文発第15～32号
33	鬼無藤井遺跡	高松市鬼無町藤井地内	集 落 跡	弥生～近世	9教文発第15～33号
34	高松城跡	高松市玉藻町93ほか	城 館 跡	近世	9教文発第15～34号
35	甲山西シスト群	普通寺市弘田町1849-4ほか	古 墳	古墳	9教文発第15～35号
36	連田遺跡	綾歌郡飯山町上法華寺1983-1	集 落 跡	奈良～中世	9教文発第15～36号
37	前谷古墳 上川井遺跡	綾歌郡飯山町東小川247ほか	古 集 落 墳 跡	古墳～奈良	9教文発第15～37号
38	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶2518-1	集 落 跡	中世	9教文発第15～38号
39	北山椿神社塚古墳	仲多度郡満濃町大字長尾2221-1	古 墳	古墳	9教文発第15～39号
40	極楽寺塚古墳	大川郡寒川町石田東2339-1他	古 墳	古墳	9教文発第15～40号
41	上天神遺跡	高松市上天神町646	集 落 跡	弥生	9教文発第15～41号
42	川津六反地遺跡	坂出市川津町2822ほか	集 落 跡	中世	9教文発第15～42号
43	川津六反地遺跡	坂出市川津町2821-2番地	集 落 跡	中世	9教文発第15～43号
44	大池遺跡	高松市木太町188	集 落 跡	弥生	9教文発第15～44号
45	石田高校校庭内 遺跡	大川郡寒川町石田東1365-1	集 落 跡	弥生～奈良	9教文発第15～45号
46	中戸遺跡	大川郡白鳥町大字白鳥1504	集 落 跡	弥生	9教文発第15～46号
47	高松城跡	高松市西内町2-1	集 落 跡	近世	9教文発第15～47号
48	空港跡地遺跡	高松市林町2217番	集 落 跡	弥生～近世	9教文発第15～48号
49	東原遺跡	綾歌郡飯山町東小川142ほか	集 落 跡	奈良	9教文発第15～49号

事業目的	事業主体	事業面積 (m ²)	事業期間	指導内容
道路	高松市	5,400m ²	9・5・6～未定	発掘調査
道路	香川県	4,000m ²	9・4・11～11・3・31	発掘調査
その他の開発	綾歌南部農業共同組合	1,200m ²	9・7・1～10・3・31	工事立会
農業関連	香川県	32,000m ²	9・5・31～9・12・26	工事立会 漁重工事
学校	香川大学	500m ²	9・10・1～9・10・31	発掘調査
道路	高松市	300m ²	10・1・27～10・3・27	発掘調査
その他の建物	高松市	9,000m ²	9・8・4～9・12・1	発掘調査
公園造成	丸亀市	1,300m ²	9・10・1～10・3・25	発掘調査
道路	香川県	250m ²	9・9・1～9・11・31	発掘調査
その他の開発	植松秀信	5m ²	9・11・10～9・11・17	工事立会
道路	香川県	1,700m ²	9・8・12～9・11・28	発掘調査
道路	高松市	3,600m ²	9・10・1～9・3・28	発掘調査
農業関連	香川県	2750m ²	9・11・11～10・3・8	工事立会
道路	高松市	9,800m ²	9・10・1～11・3・31	発掘調査
その他の建物	松平公益会	400m ²	10・1・12～10・9・30	発掘調査
農業関連	香川県	400m ²	9・11・22～10・2・28	漁重工事
農業関連	飯山町	14,000m ²	9・4・21～10・1・30	漁重工事
農業関連	飯山町	16,000m ²	9・10・31～10・3・25	漁重工事
宅地造成	岩部忠衛	800m ²	9・11・1～9・11・30	工事立会
農業関連	満濃町土地改良区	23,000m ²	9・10・20～10・3・31	発掘調査
水道・その他の建物	寒川町	10,000m ²	9・10・1～12・3・31	発掘調査
道路	建設省	1,000m ²	9・7・1～14・3・31	発掘調査
道路	香川県	2,000m ²	未定	発掘調査
河川	香川県	700m ²	10・6・1～11・3・31	発掘調査
その他の開発	高松市木太町新池 土地改良区	9,600m ²	9・11・4～10・2・20	工事立会
学校	香川県	20m ²	9・11・18～9・12・22	工事立会
農業関連	香川県	44,000m ²	9・12・13～10・3・22	工事立会
その他の建物	香川県	2,000m ²	9・10・13～11・11・30	発掘調査
学校	香川大学	100m ²	10・2・2～10・2・26	漁重工事
農業関連	飯山町	42,000m ²	9・4・21～10・1・30	発掘調査 漁重工事

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
50	西浦谷遺跡	木田郡三木町池戸1628-1	集落跡	弥生	9教文発第15-50号
51	鞍谷池東遺跡	坂出市高屋町字東2049-2	散布地	旧石器	9教文発第15-51号
52	国分台遺跡	綾歌郡国分寺町国分2952-1	散布地	旧石器	9教文発第15-52号
53	国分台遺跡	坂出市神谷町825-1	散布地	旧石器	9教文発第15-53号
54	川津六反地Ⅱ遺跡	坂出市川津町2920-1	集落跡	弥生～古墳	9教文発第15-54号
55	汲仏遺跡	高松市多肥下町1262-1	集落跡	弥生・平安	9教文発第15-55号

III 埋蔵文化財発掘調査の届出（57条）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	農学部遺跡	木田郡三木町池戸2393番地	集落跡	弥生・中世	9教文発第19-2号

IV 埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の2）

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
1	町代2号墳	仲多度郡満濃町長尾 1915	古 墳	古 墳	団体営ほ場整備事業	満 濃 町
2	佐古川・窪田遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊西 1601ほか	集落跡	中 世	国道32号線建設事業	建 設 省
3	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町 2-1-1	集落跡	弥 生	国立普通寺病院看護学校 及び宿舎等建設事業	国 立 普 通 寺 病 院
4	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町1492他	集落跡	弥生、 奈良	県道太田上町志度線建設 事業	香 川 県
5	多肥松林遺跡	高松市多肥上町1214他	集落跡	弥 生	県道太田上町志度線建設 事業	香 川 県
6	空港跡地遺跡	高松市林町	集落跡	弥生 ～中世	インテリジェントパーク 整備事業	香 川 県
7	兀塚遺跡	高松市円座町 340-4他	集落跡	古墳、 中世	県道三木国分寺線建設事 業	香 川 県
8	西打遺跡	高松市香西南町 213-1他	集落跡	弥生、 中世	高松港頭地区土地区画整 理事業	香 川 県
9	原中村遺跡	木田郡牟礼町原1774他	集落跡	弥 生	県立医療短期大学建設事 業	香 川 県
10	山田郡条里A地区 遺跡	高松市林町2123-1他	散布地	弥生 ～古墳	四国横断自動車道（高松 市内区間）建設事業	道 路 公 团
11	住屋遺跡	大川郡大内町川東 184-2	集落跡	古 墳	県道大内白鳥インター線 建設事業	香 川 県

事業目的	事業主体	事業面積 (m ²)	事業期間	指導内容
その他の開発	山田博	1,500m ²	未定	発掘調査
道路	普通寺駐屯地業務隊	3,500m ²	未定	慎重工事
その他の開発	普通寺駐屯地業務隊	4,000m ²	未定	工事立会
その他の開発	普通寺駐屯地業務隊	300m ²	未定	工事立会
道路	香川県	1,000m ²	10・3・11～10・5・29	発掘調査
道路	高松市	150m ²	10・1・27～10・3・27	発掘調査

事業目的	調査主体	調査面積	調査期間	指導内容
学内施設設置	香川大学	80m ²	9・8・25～9・9・25	慎重に調査実施

対処	調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	満濃町教委	100	9・4・14 ↓ 9・6・30	片桐節子	満濃町	工事実施
事前調査	香川県教委	9,000	9・4・1 ↓ 9・3・31	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	3,000	9・4・1 ↓ 9・9・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	国立普通寺 病院	工事実施
事前調査	香川県教委	4,000	9・4・1 ↓ 9・9・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	7,000	9・4・1 ↓ 9・12・31	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	6,000	9・4・1 ↓ 9・11・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	371	9・4・1 ↓ 9・5・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	23,673	9・4・1 ↓ 10・3・31	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	2,000	9・4・1 ↓ 9・6・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	200	9・4・1 ↓ 9・4・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	包蔵地確認 事前調査
事前調査	香川県教委	2,000	9・4・1 ↓ 9・6・30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
12	原間遺跡	大川郡大内町原間 1356	集 落 跡	弥生 ～古墳	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
13	杖の端地区遺跡	大川郡大内町川東 1101	散 布 地	弥生 ～古墳	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
14	成重遺跡	大川郡白鳥町2120他	集 落 跡	弥 生	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
15	中の池遺跡	丸亀市金倉町	集 落 跡	縄 楔 ～弥生	丸亀市総合運動公園建設 事業	丸 亀 市
16	西ハゼ土居遺跡	高松市西ハゼ町	集 落 跡	弥 生	市道木太鬼無線建設事業	高 松 市
17	香西南西打遣跡 鬼無藤井遺跡	高松市香西南町、 鬼無町	集 落 跡	弥生 ～近世	市道香西東臨港線建設 市道鬼無町藤井12号線	高 松 市
18	小砂地区遺跡	大川郡大内町小砂 219他	社 寺 跡	中 世	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
19	鹿庭地区遺跡	大川郡引田町吉田字 鹿庭168-2	集 落 跡	弥 生	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
20	始覚寺跡	木田郡三木町井上 612他	社 寺 跡	奈 良	興 営 は 場 整 備 事 業	香 川 県
21	六反地Ⅱ遺跡(仮称)	坂出市川津町 4941-9他	集 落 跡	弥 生	国道438号線建設事業	香 川 県
22	高松城跡	高松市西の丸町5他	城 館 跡	近 世	高松港頭地区土地区画整 理事業	香 川 県
23	権の助遺跡	三豊郡山本町辻	集 落 跡	弥 生	鴻門川改修事業	香 川 県
24	木太本村Ⅱ遺跡	高松市木太町本村 1347	集 落 跡	奈 良	宮川改修事業	香 川 県
25	高松城跡	高松市西内町7-13	城 館 跡	近 世	P T A 会館建設事業	高 松 市
26	楠谷地区遺跡	大川郡大内町水主 5161	集 落 跡	弥生 ～中世	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
27	馬籠地区遺跡	大川郡大内町馬籠 227他	散 布 地	中 世	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
28	上天神遺跡	高松市上天神町646	集 落 跡	弥 生	四国横断自動車道（高松 市内区間）建設事業	建 設 省 道 路 公 团
29	筑城城跡	高松市鶴市町	城 館 跡	中世、 近世	弦打公民館建設事業	高 松 市
30	香西南西打遣跡	高松市香西南町	集 落 跡	中 世	地域老人福祉センター建 設事業	高 松 市

対 处	調査主体	面 積	調査期間	担 当 者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	20,000	9. 4. 1 9. 5. 13	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	5,000	9. 4. 1 9. 9. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	16,000	9. 4. 1 10. 3. 31	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	丸亀市教委	2,734	9. 5. 15 9. 8. 31	松本考古学研究所	丸 亀 市	工事実施
事前調査	高松市教委	3,840	9. 6. 6 9. 9. 30	高松市教委 大鷗和則	高 松 市	工事実施
事前調査	高松市教委	2,830	9. 5. 6 10. 3. 31	高松市教委 山元敏裕	高 松 市	工事実施
事前調査	香川県教委	100	9. 5. 1 9. 5. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	350	9. 5. 1 9. 5. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	140	9. 5. 28	文化行政課 木下晴一	国・県等	工事実施
事前調査	香川県教委	70	9. 3. 12	文化行政課 木下晴一	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	300	9. 6. 1 9. 7. 31	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	150	9. 6. 5 9. 6. 5	文化行政課 塩崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	40	9. 6. 23 9. 7. 8	文化行政課 木下晴一	香 川 県	工事実施
事前調査	高松市教委	560	9. 7. 10	高松市教委 大鷗和則	高 松 市	工事実施
事前調査	香川県教委	1,500	9. 7. 1 9. 9. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	3,800	9. 7. 1 9. 9. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	500	9. 8. 1 9. 9. 30	跡香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	高松市教委	600	9. 7. 8 9. 8. 6	高松市教委 山本英之	高 松 市	工事実施
事前調査	高松市教委	820	9. 8. 7 9. 10. 9	高松市教委 山本英之	高 松 市	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
31	上新開塚	高松市岡本町	その他の墓	奈 良	県道干疋高松線建設事業	香 川 県
32	黒羽地区遺跡	大川郡引田町黒羽 258他	集 落 跡	弥 生	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
33	高原地区遺跡	大川郡大内町水主 4901他	その他の遺跡	古 墳	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
34	別所地区遺跡	大川郡大内町川東 32-1他	集 落 跡	弥生～古墳	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
35	川津六反地遺跡	坂出市川津町六反地 2822他	集 落 跡	弥生、中世	県道富能字多津線建設 城山川改修事業	香 川 県
36	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶 字西村北4193-1	集 落 跡	平安～中世	県道府中琴南線建設事業	香 川 県
37	林・坊城遺跡	高松市林町1529-2他	集 落 跡	繩文～弥生	四国横断自動車道（高松市内区間）建設事業	道 路 公 团
38	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	集 落 跡	弥生～古墳	国立普通寺病院看護学校等建設	国 立 普 通 寺 病 院
39	奥の功椎現前遺跡	高松市高松町	集 落 跡	弥生～近世	高松市東部運動公園建設事業	高 松 市
40	北山楠神社塚古墳	仲多度郡満濃町長尾 字北山2221-1	古 墓	古 墓	団体営ほ場整備事業	満 濃 町
41	松並・中所遺跡	高松市松並町935-4	集 落 跡	中 世	県道錦町四分寺線南線建設事業	香 川 県
42	前田東・中村遺跡	高松市前田東町 150-1他	集 落 跡	繩文～中世	四国横断自動車道（高松市内区間）建設事業	道 路 公 团
43	池の奥地区遺跡	大川郡白鳥町白鳥 1079他	集 落 跡	弥 生	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
44	鬼無藤井遺跡	高松市鬼無町藤井地内	集 落 跡	弥生～近世	市道香西南町16号線建設事業・JR貨物移転	高 松 市 JR
45	高松城跡	高松市玉藻町4-10他	城 館 跡	近 世	鴨松平公益会事務所改築事業	鴨 松 平 公 益 会
46	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町1465他	集 落 跡	弥 生	県道太田上町志度線建設事業	香 川 県
47	新田本村遺跡	高松市新田町地内	集 落 跡	平安～中世	市道室町新田線建設事業	高 松 市
48	弘福寺領譜岐国山 田郡田園北地区比 定地	高松市木太町188	散 布 地	弥生、奈良	平成9年度埋蔵文化財国 庫補助事業	高 松 市
49	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原 字中村	集 落 跡	弥 生	県立医療短期大学建設事業	香 川 県

対処	調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	30	9. 9. 3 9. 9. 5	文化行政課塩崎誠司	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	7,000	9. 9. 4 10. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	250	9. 7. 1 9. 9. 30	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,800	9. 7. 1 9. 9. 30	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	2,886	9. 10. 1 10. 2. 28	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	50	9. 10. 3	文化行政課塩崎誠司	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	490	9. 10. 1 9. 11. 30	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	30	9. 10. 8 9. 10. 9	文化行政課木下晴一	国立善通寺病院	工事実施
事前調査	高松市教委	5,200	9. 10. 7 10. 3. 31	高松市教委大鷲和則	高松市	工事実施予定
事前調査	満濃町教委	600	9. 10. 27 9. 11. 8	片桐節子	満濃町	工事実施
事前調査	香川県教委	2,300	9. 10. 1 10. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	4,040	9. 10. 1 10. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施予定
事前調査	香川県教委	3,000	9. 11. 1 10. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施予定
事前調査	高松市教委	6,171	9. 11. 13 10. 3. 31	高松市教委山元敏裕	高松市	工事実施
事前調査	高松市教委	330	9. 11. 17 9. 12. 19	高松市教委大鷲和則	鰐松平公益会	工事実施
事前調査	香川県教委	220	9. 12. 16 9. 12. 24	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	高松市教委	1,220	9. 12. 12 9. 12. 12	鰐香川県埋蔵文化財調査センター	高松市	工事実施
試掘調査	高松市教委	1,000	9. 12. 8 10. 1. 30	高松市教委山本英之	国・県・市	包蔵地確認
事前調査	香川県教委	30	10. 1. 19 10. 1. 22	文化行政課塩崎誠司	香川県	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
50	極楽寺墳墓群	大川郡寒川町石田東字極楽寺甲 2339-1他	古 墳	弥生 ~古墳	寒川町上水道浄水場建設事業	寒 川 町
51	西長尾城跡	綾歌郡綾歌町岡田上 2312-10他	城 館 跡	中 世	平成9年度埋蔵文化財国庫補助事業	綾 歌 町
52	宮山廬跡	三豊郡豊中町大字比 地大字宮ノ下3280-6	生産遺跡	古 墳	平成9年度埋蔵文化財国庫補助事業	豊 中 町
53	一角遺跡ほか	高松市林町42-7ほか	集 落 跡	奈良、 近世	平成9年度埋蔵文化財国庫補助事業	高 松 市
54	込田地区遺跡	大川郡引田町引田 1098他	散 布 地	繩 文	四国横断自動車道(津田 ~引田間)建設事業	道 路 公 团
55	川津六反地Ⅱ遺跡	坂出市川津町六反地	集 落 跡	弥生 ~古墳	国道438号線建設事業	香 川 県
56	沙弥島千人塚遺跡	坂出市沙弥島南通り 65他	古 墳	古 墳	平成9年度埋蔵文化財国庫補助事業	坂 出 市
57	尾崎遺跡	木田郡三木町田中字尾端	集 落 跡	古墳 ~近世	県道高松長尾大内線建設事業	香 川 県
58	法月地区遺跡	大川郡白鳥町松原字 法月	集 落 跡	不 明	四国横断自動車道(津田 ~引田間)建設事業	道 路 公 团
59	高松城跡	高松市西内町	城 館 跡	近 世	高松北警察署建設事業	香 川 県
60	宗吉瓦窯跡	三豊郡三野町大字 吉津字宗吉甲	生産遺跡	奈 良	平成9年度埋蔵文化財国庫補助事業	三 野 町
61	汲仏遺跡	高松市多肥下町 1262-1	集 落 跡	弥生、 平安	太田第2土地区画整理事業	高 松 市

V 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査

番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
1	田村魔寺跡	丸亀市田村町道東	民間開発事業	百十四銀行
2	井戸地区	木田郡三木町大字井戸	三木・長尾葬祭場建設	三 木 町
3	四房地区	大川郡白鳥町白鳥字成重	県営ほ場整備(白鳥上地区)	香 川 県
4	池戸鍋淵地区	木田郡三木町大字池戸	水田汎用化基盤整備事業	三木町土地改 良 区
5	山南地区	普通寺市生野町字山南	公営住宅(普通寺)建設事業	香 川 県
6	高松城跡	高松市玉藻町	松平公益会事務所建設	松 平 公 益 会
7	築城城跡	高松市鶴市町	公民館建設事業	高 松 市
8	大塙谷地区	綾歌郡飯山町大字上法軍寺	団体営ほ場整備(大塙谷地区)	飯 山 町

対 处	調査主体	面 積	調査期間	担 当 者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	寒川町教委	7,067	9. 9. 8 10. 2. 28	寒川町教委 山本一伸	寒川町	工事実施
測量調査	綾歌町教委	1,210	10. 1. 23 10. 3. 8	綾歌町教委 近藤武司	国・県・町	現状保存
試掘調査	豊中町教委	521	10. 2. 23 10. 3. 31	豊中町教委 森裕行	国・県・町	現状保存
試掘調査	高松市教委	400	10. 2. 23 10. 3. 31	高松市教委 山本英之	国・県・町	現状保存
事前調査	香川県教委	155	10. 3. 1 10. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施予定
事前調査	香川県教委	100	10. 3. 17 10. 3. 24	文化行政課 木下靖一	香川県	工事実施
試掘調査	坂出市教委	71	10. 1. 13 10. 3. 31	坂出市教委 今井和彦	国・県・市	現状保存
事前調査	香川県教委	947	10. 1. 5 10. 2. 28	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	510	10. 1. 5 10. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,000	10. 3. 1 10. 6. 30	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施予定
試掘調査	三野町教委	200	9. 11. 6 10. 3. 26	三野町教委 白川雄一	国・県・町	現状保存
事前調査	高松市教委	120	10. 3. 3 10. 3. 10	高松市教委 山本英之	高松市	工事実施

調査主体	面 積	調 査 期 間	担 当 者	費用負担	調査の結果
丸亀市教委	330	9. 4. 11~9. 5. 2	丸亀市教委 東 信男	百十四 銀 行	包蔵地確認 事前調査予定
三木町教委	60	9. 4. 15~9. 4. 16	三木町教委 石井 健一	三木町教委	包蔵地確認されず
香川県教委	122	9. 5. 26~9. 5. 28	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
三木町教委	82	9. 6. 11	三木町教委 石井 健一	三木町教委	包蔵地確認 工事立会
香川県教委	280	9. 6. 19, 9. 10. 21	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成10年事前調査
高松市教委	18	9. 6. 23~9. 6. 26	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 事前調査実施
高松市教委	57	9. 6. 30	高松市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認 事前調査実施
飯山町教委	850	9. 6. 30~9. 7. 17	飯山町教委 佐岡 文化行政課指導	飯山町	包蔵地確認 平成 9年事前調査

番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
9	西明寺裏包含地	綾歌郡綾上町粉所西	中山間地域総合整備(綾上地区)	香 川 県
10	栗熊東地区	綾歌郡綾歌町栗熊東	個人住宅造成	個 人
11	香西南西打地区	高松市香西南町	老人福祉センター建設事業	高 松 市
12	高松城跡	高松市西内町	P T A会館建設事業	県高等学校教育振興会
13	観音地区	大川郡長尾町西字観音	町営観音団地跡造成事業	長 尾 町
14	本村地区	高松市木太町字本村	中小河川宮川改修事業	香 川 県
15	野田院地区	普通寺市大麻町	象頭山園地造成事業	香 川 県
16	坂元地区	大川郡引田町引田字坂元	坂元地区は場整備事業	引 田 町
17	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	国立善通寺病院施設建設	国立善通寺病院
18	六反地地区	坂出市川津町字六反地	中小河川域山川改修事業	香 川 県
19	椎尾地区	綾歌郡綾歌町岡田東	県営農道(綾歌地区)建設事業	香 川 県
20	中間東井坪地区	高松市中間町	市道中間町45号線建設事業	高 松 市
21	高松城跡	高松市西の丸町	高松港頭地区開発事業	香 川 県
22	西ハゼ土居地区	高松市西ハゼ町	市道木太鬼無線建設事業	高 松 市
23	汲仏地区	高松市多肥上町	県警察機動隊舎建設事業	香 川 県
24	寺田地区	大川郡大川町富田西字寺田	J A大川ライスセンター建設	J A 大 川
25	元山馬ノ口地区	高松市元山町	川添ポンプ場建設事業	高 松 市
26	小塙地区	仲多度郡多度津町葛原	国道11号線坂出丸龜B P建設	建 設 省
27	木太中村地区	高松市木太町	都市計画道路福岡三谷線建設事業	高 松 市
28	雄山地区	坂出市王越町	県道高松王越坂出線建設事業	香 川 県
29	須田・中尾瀬地区	三豊郡詫間町詫間字須田 ～中尾瀬	県道紫雲出山線(須田B P) 建設事業	香 川 県
30	水田地区	高松市東山崎町水田	県道高松長尾大内線建設事業	香 川 県
31	原間地区	大川郡大内町川東	県道大内白鳥インター線建設	香 川 県
32	鶴市中所地区	高松市鶴市町	住宅団地造成事業	県住 宅 供 給 公 社
33	六反地地区	坂出市川津町六反地	国道438号線建設事業	香 川 県
34	春日地区	高松市春日町	県道高松長尾大内線建設事業	香 川 県
35	香西南西打地区	高松市香西南町	高松港頭地区再開発関連事業	高 松 市
36	北上所地区	大川郡津田町神野字北上所	町道北所農道建設改良事業	津 田 町

調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
香川県教委	150	9. 7. 3～9. 7. 4	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認工事立会
綾歌町教委	106	9. 7. 5～9. 7. 6	綾歌町教委 近藤 武司	国・県・町	包蔵地確認されず
高松市教委	45	9. 7. 7～9. 7. 8	高松市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認事前調査実施
高松市教委	47	9. 7. 10	高松市教委 大鷲 和則	原因者重機提供	包蔵地確認事前調査
長尾町教委	160	9. 7. 15～9. 7. 18	大川広域 阿河 銳二	長尾町教委	包蔵地確認されず
香川県教委	65	9. 7. 23～9. 7. 24	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	50	9. 7. 31～9. 8. 1	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認されず
引田町教委	112	9. 8. 11～9. 8. 13	大川広域 萬木 一郎	引田町教委	包蔵地確認されず
香川県教委	21	9. 8. 19	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認事前調査
香川県教委	20	9. 8. 29	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	110	9. 8. 29	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
高松市教委	40	9. 9. 4	高松市教委 大鷲 和則	高松市	包蔵地確認されず
香川県教委	150	9. 9. 10, 10. 3, 5	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認平成11年事前調査
高松市教委	30	9. 9. 18	高松市教委 大鷲 和則	高松市	包蔵地確認事前調査
香川県教委	75	9. 9. 24～9. 9. 25	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認平成10年事前調査
大川町教委	295	9. 9. 24～9. 9. 25	大川広域 萬木 一郎	大川町教委	再度協議
高松市教委	40	9. 9. 25	高松市教委 大鷲 和則	国・県・市	包蔵地確認されず
香川県教委	220	9. 10. 1～9. 10. 3	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認協議中
高松市教委	100	9. 10. 3～9. 10. 6	高松市教委 大鷲 和則	国・県・市	包蔵地確認平成10年事前調査
香川県教委	8	9. 10. 6	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	110	9. 10. 7～9. 11. 7	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認平成11年事前調査
香川県教委	65	9. 10. 9	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	40	9. 10. 14	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認平成11年事前調査
高松市教委	66	9. 10. 16～9. 10. 18	高松市教委 山元 敏裕	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	45	9. 10. 17	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認平成11年度事前調査
香川県教委	220	9. 10. 19	文化行政課 塩崎 誠司	香川県教委	包蔵地確認されず
高松市教委	83	9. 10. 27	高松市教委 山元 敏裕	高松市	包蔵地確認平成10年事前調査
津田町教委	45	9. 10. 27～9. 10. 29	大川広域 萬木 一郎	津田町教委	包蔵地確認されず

番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
37	東中筋地区	高松市花の宮町	市道東浜港花の宮線建設事業	高 松 市
38	椎尾東地区	綾歌郡綾歌町岡田東	公園造成に伴うため池渡溝	綾 歌 可
39	道上地区	丸亀市金倉町道上	総合運動公園建設に伴う墓地改修	丸 亀 市
40	天神地区	仲多度郡満濃町大字長尾	団体営は場整備事業	満 濃 町 土地改良区
41	中戸・原地区	大川郡白鳥町白鳥字中戸～原	県営は場整備（白鳥上地区）	香 川 県
42	林地区	高松市林町	産業交流センター駐車場造成	香 川 県
43	樋ノ口地区	綾歌郡飯山町大字東小川	町営は場整備（樋ノ口地区）	飯 山 町
44	重清地区	綾歌郡綾南町大字陶字重清	県営は場整備（綾南南部上地区）	香 川 県
45	岡清水地区	香川郡香南町岡	国道193号線建設事業	香 川 県
46	大手町地区	丸亀市大手町 2 丁目	丸亀市福祉センター建設事業	丸 亀 市
47	陶烟遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字陶烟	民間宅地開発	民 間 企 業
48	瀬端道下地区	高松市木太町	都市計画道路福岡三谷線建設事業	高 松 市
49	中将・清房地区	大川郡白鳥町西山字中将～清房	町工業団地建設事業	白 鳥 町
50	国分台遺跡	綾歌郡国分寺町国分	自衛隊国分台演習場造成	高松防衛施設事務所
51	汲仏地区	高松市多肥下町	太田第2土地区画整理事業	高 松 市
52	坂下・万塚地区	香川郡香川町大字浅野	県道岩崎高松線建設事業	香 川 県
53	平松池地区	綾歌郡綾南町大字陶字森末	県営は場整備（綾南南部上地区）	香 川 県
54	小砂地区	大川郡大内町小砂	町道小砂本線建設	大 内 町
55	正面地区	大川郡志度町志度字正面	町道藤村線建設事業	志 度 町

VI 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事 業 面 積	調査 内 容
1	普通寺市仙遊町	国立普通寺病院内看護学校施設建設工事	国立普通寺病院	約100m ²	立 会 調 査
2	高松市（稲荷山頂上）	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約500m ²	分 布 調 査
3	高松市松並町	都市計画道路錦町国分寺綾南線改良工事	県都市計画課	約700m ²	立 会 調 査
4	丸亀市金倉町	中小河川西汐入川改修工事	県河川課	約400m ²	立 会 調 査
5	普通寺市仙遊町	国立普通寺病院内看護学校施設建設工事	国立普通寺病院	約150m ²	立 会 調 査
6	仲多度郡多度津町山階	県道丸亀院豊浜線改修工事	県道路建設課	約5,000m ²	分 布 調 査
7	高松市松並町	都市計画道路錦町国分寺綾南線改良工事	県都市計画課	約100m ²	立 会 調 査

調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
高松市教委	83	9. 11. 7～9. 11. 8	高松市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
綾歌町教委	58	9. 11. 15	綾歌町教委 近藤 武司	国・県・町	包蔵地確認 平成10年事前調査
丸亀市教委	32	9. 11. 21	丸亀市教委 東 信男	丸 亀 市	包蔵地確認されず
満濃町教委	60	9. 12. 15	満濃町教委 堀田 文化行政課指導	満 濃 町	包蔵地確認 平成10年事前調査
香川県教委	100	9. 12. 24	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 工事立会
香川県教委	117	10. 1. 13～10. 1. 14	文化行政課 木下 晴一	国・県	再度協議
飯山町教委	65	10. 1. 26	飯山町教委 佐岡 文化行政課指導	飯 山 町	包蔵地確認 工事立会予定
香川県教委	200	10. 1. 26, 10. 2. 5	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	180	10. 2. 9～10. 2. 10	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11年事前調査
丸亀市教委	160	10. 2. 9～10. 2. 13	丸亀市教委 東 信男	丸 亀 市	包蔵地確認 工事立会
綾南町教委	300	10. 2. 12～10. 2. 17	片桐 節子	綾 南 町 委 教	包蔵地確認 平成10年事前調査
高松市教委	5	10. 2. 16	高松市教委 大島 和則	高 松 市	包蔵地確認されず
白鳥町教委	64	10. 2. 23～10. 3. 3	大川広城 萬木 一郎	白 鳥 町 委 教	包蔵地確認されず
香川県教委	5	10. 2. 24～10. 3. 6	文化行政課 木下 晴一	香 川 県 委 教	包蔵地確認 工事立会
高松市教委	50	10. 2. 25	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 事前調査実施
香川県教委	160	10. 3. 2～10. 3. 4	文化行政課 塩崎 誠司	香 川 県 委 教	包蔵地確認されず
香川県教委	300	10. 3. 9～10. 3. 11	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 工事立会
大内町教委	83	10. 3. 17～10. 3. 29	大川広城 萬木 一郎	大 内 町 委 教	包蔵地確認されず
志度町教委	112	10. 3. 18～10. 3. 19	大川広城 阿河 銳二	志 度 町 委 教	包蔵地確認されず

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
旧練兵場遺跡内。	県教委・木下	9・4・11	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
石清尾山古墳群に隣接。	県教委・塩崎	9・4・16	稻荷山2・3号墳（周知）を確認。
松並・中所遺跡に隣接。	県教委・塩崎	9・4・17	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
平池東遺跡に隣接。	県教委・塩崎	9・4・25	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
旧練兵場遺跡内。	県教委・木下	9・4・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため。	県教委・木下	9・5・2	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
松並・中所遺跡に隣接。	県教委・塩崎	9・5・14	埋蔵文化財包蔵地確認されず。

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事 業 面 積	調査 内 容
8	坂出市瀬居町	県道瀬居島循環線建設事業	県道路建設課	約7,000m ²	分布 調査
9	高松市（稻荷山頂上）	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約500m ²	立会 調査
10	大川郡白鳥町白鳥字成重	県営は場整備事業（白鳥上地区）	県土地改良課	約2.5ha	立会 調査
11	綾歌郡綾南町大字陶字丸山	押池埋立て工事	県道路建設課	約1,000m ²	立会 調査
12	小豆郡土庄町小海	復旧治山事業（小海地区）	県林務課	約800m ²	分布 調査
13	高松市西植田町	中小河川高様川改修	県河川課	約1,300m ²	分布 調査
14	小豆郡土庄町小海	復旧治山事業（小海地区）	県林務課	約800m ²	立会 調査
15	高松市西の丸町	サンポート高松整備事業	県サンポート高松推進局	約5.7ha	立会 調査
16	丸亀市本島町	県道本島循環線改良事業	県道路建設課	約3,500m ²	分布 調査
17	普通寺市仙遊町	国立普通寺病院内看護学校施設建設工事	国立普通寺病院	約50m ²	立会 調査
18	大川郡大川町富田中	羽鹿池堤防改修事業	国営農地防災事務所	約2,300m ²	立会 調査
19	綾歌郡国分寺町国分	青年センター新築事業	県青少年女性課	約600m ²	分布 調査
20	高松市木太町	中小河川官川改修事業	県河川課	約460m ²	立会 調査
21	高松市新田町	採土工事	個人	約300m ²	分布 調査
22	丸亀市郡家町	矢野池改修事業	県土地改良課	約600m ²	立会 調査
23	高松市中間町 ～香川郡香南町	高規格道建設事業	県道路建設課	約10ha	分布 調査
24	綾歌郡綾上町平見	山王池改修事業	県土地改良課	約1,200m ²	立会 調査
25	綾歌郡綾南町大字陶	中小河川富川改修事業	県河川課	約2,700m ²	立会 調査
26	坂出市高屋町	県道鴨停五色台線改修	県道路建設課	約300m ²	立会 調査
27	三豊郡豊浜町姫浜	豊浜郵便局新築工事	四国郵政局	約2,000m ²	立会 調査
28	坂出市川津町	県警察川津駐在所建設工事	県警察本部	約50m ²	立会 調査
29	木田郡三木町	東田中地区一般農道整備事業	県土地改良課	約2,000m ²	分布 調査
30	大川郡寒川町石田東	大川南部農道建設工事	県土地改良課	約400m ²	立会 調査

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
事業面積が広大であるため。	県教委・木下	9・5・29	試掘調査の必要な範囲を指示。
石清尾山古墳群に隣接。	県教委・塩崎	9・6・4～6	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
成重遺跡内。	県教委・塩崎	9・7・7	近世以降の井戸1基確認。
古瓦の散布が認められたため。	県教委・塩崎	9・7・17	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
小海残石群に隣接。	県教委・塩崎	9・8・14	大坂城残石に類似する石を確認。
下司魔寺に隣接。	県教委・塩崎	9・8・20	工事中の立会の必要な範囲を指示。
小海残石群に隣接。	県教委・塩崎	9・9・2	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
高松城跡に隣接。	県教委・塩崎	9・9・9	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため。	県教委・木下	9・10・7	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
旧練兵場遺跡内。	県教委・木下	9・10・15	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
羽鹿遺跡に隣接。	県教委・塩崎	9・10・16	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
国分寺跡に隣接。	県教委・塩崎	9・10・27	現状に至る土地改变が著しいことを確認。
大池遺跡に隣接。	県教委・木下	9・11・14	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
県史跡高松茶臼山古墳に隣接。	県教委・木下	9・11・14	県史跡範囲外の工事であることを確認。
矢野池遺跡内。	県教委・木下	9・11・19	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため。	県教委・木下	9・11・25 ほか	協議中。
平見包含地に隣接。	県教委・塩崎	9・12・3	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
土器片の散布がみられたため。	県教委・塩崎	9・12・12	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
牛子山遺跡に隣接。	県教委・木下	9・12・19	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため。	県教委・塩崎	9・12・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
川津六反地遺跡に隣接。	県教委・木下	10・1・6	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため。	県教委・木下	10・1・13	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
極楽寺墳墓群に隣接。	県教委・塩崎	10・1・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず。

発掘調査の概況

ごん の すけ い せき 跡

1. 所在地 三豊郡山本町辻
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年5月15日
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 中小河川鴻門川改修事業
7. 調査結果の概要

調査地は、財田川中流域の西側平野部に位置し、財田川の支流である標記河川改修に伴い土器片が出土したことから急速調査を実施したものである。調査は、工事による掘削が既に進んでいたため、断面観察にとどまったものの幅20m以上、深さ約2.2mの旧流路を検出している。遺物は最下層の黒褐色シルト層及び黒灰色砂粒土層から出土しているが、出土遺物は第3図に示すとおり、弥生時代中期後半、古墳時代前期、後期の時期の遺物が混在し、流れ込みによる影響か一括性はみられない。ただ、古墳時代前期の出土遺物の中には吉備系の搬入土器片が認められ注目される。また、黒褐色シルト層中には多量の木片が含まれるもの、加工痕跡がみられるものは検出されなかった。

8.まとめ

今回出土した遺物は全て旧流路内からの出土で、遺物の時期幅からみても2次的移動を受けたことは確実と想定される。しかしながら、土器片の摩滅状況から考えても付近に当該期の集落跡が所在したことは確実で、比較的大きな河川である財田川近辺の低地帯で弥生期から集落が営なされた可能性が示唆される。資料が得られた意義は大きい。今後当該地域における微細な旧地形復元の検討を踏まえて複数時期にまたがる集落展開の様相が明らかになることが期待される。(塩崎)

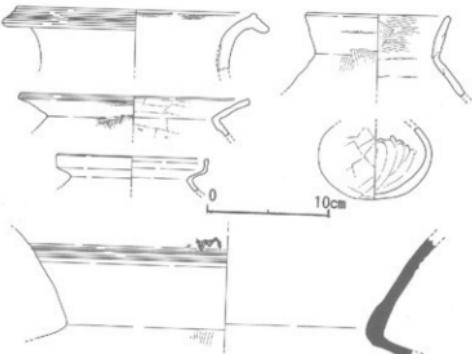


第2図 遺跡近景(旧流路断面)



第1図 遺跡の位置(「観音寺」)

後期の時期の遺物が混在し、流れ込みによる影響か一括性はみられない。ただ、古墳時代前期の出土遺物の中には吉備系の搬入土器片が認められ注目される。また、黒褐色シルト層中には多量の木片が含まれるもの、加工痕跡がみられるものは検出されなかった。



第3図 出土遺物実測図

もり つち やま 古 墳

1. 所在地 仲多度郡多度津町奥白方
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年10月13~27日
4. 調査面積 100m² (トレンチ7箇所)
5. 調査担当者 文化行政課 木下晴一
6. 調査の原因 遺跡の範囲確認
7. 調査結果の概要とまとめ

県道計画路線内に県史跡指定範囲が含まれることが判明し、数度にわたる協議の結果、史跡範囲の確定が正式な調査を経たものではないことから、試掘調査を行って遺構の内容を確認することになった。調査は重機を用いて遺構面まで掘削し、以下人力で精査を行ったが、翌年の稲作に影響を与えないことが調査承諾の条件であり、遺構を検出した時点で調査を終了したトレンチが多い。

盛土山古墳は、現在の弘田川河口部から上流1.5kmに位置し、瀬戸内海沿岸の低地に立地する古墳として注目されている。大正4年に発掘され、箱式石棺と推定される埋葬施設から蜻蛉玉などの玉類、画文帯神獸鏡などの遺物が採集されている。出土遺物のセットから5世紀代の古墳と推定され、海岸部という特徴的な立地ともあわせて昭和51年に県史跡に指定された。

調査は、7本のトレンチを墳丘の中心から放射状に設定した。調査の結果、盛土山古墳は從来通り円墳である可能性が高いこと、二重の周溝がめぐること、円筒埴輪片の出土より5世紀後半の築造であることが明らかとなった。古墳の規模は、検出面からの復原のためにやや不正確な数値となるが、墳丘の直径約42m、内側の周溝の幅約7~8m、外側の周溝の幅約3m、外側周溝の直径約75mである。内側の周溝の墳丘側の肩部には犬頭大の石が葺かれている。なお、外側の周溝の北西部については、後の時代の旧河道と地下水によって破壊されていることも判明した。出土遺物は、円筒埴輪片、形象埴輪片(キヌガサ)、須恵器片などで、円筒埴輪には須恵質のものを含み川西宏幸編年のIV期にあたる。

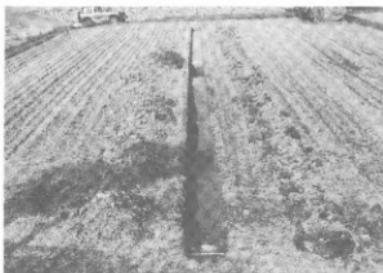
今回の試掘調査は遺構の拡がりを確認するのが目的で、内容まで十分に調査することができなかつたが、規模や築造時期を絞り込めたなどの成果をあげることができた。(木下)



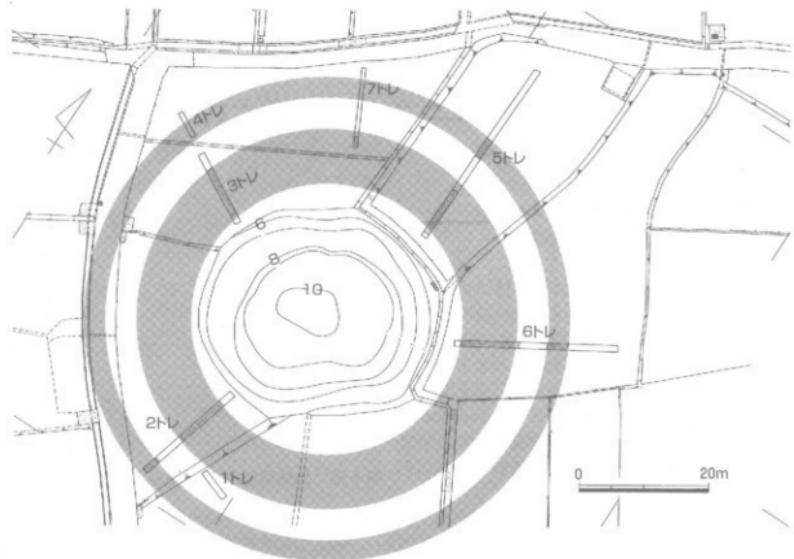
第1図 遺跡の位置（「讃岐栗島」「仁尾」）



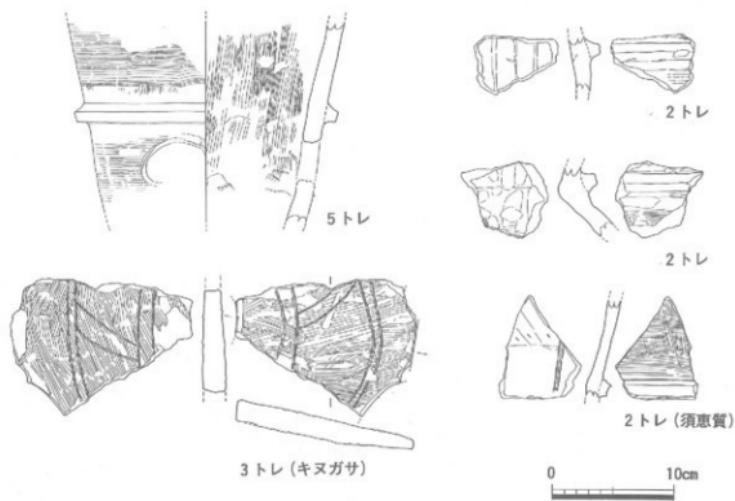
第2図 2トレンチ (内側周溝)



第3図 5トレンチ (墳丘から)



第4図 周溝推定図



第5図 出土遺物実測図

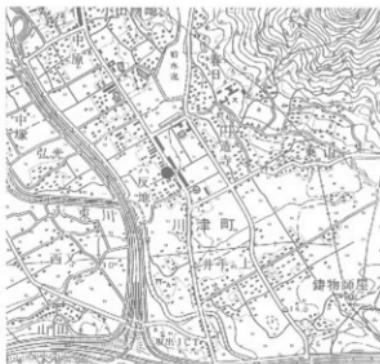
かわつろくたんじ　いせき 川津六反地Ⅱ遺跡（仮称）

1. 所在地 坂出市川津町六反地
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年3月17～24日
4. 調査面積 112m²
5. 調査担当者 文化行政課 木下晴一
6. 調査の原因 国道438号線道路改良
7. 調査結果の概要

国道438号線改良工事に伴って発見された川津六反地Ⅱ遺跡（仮称）については、勘査香川県埋蔵文化財調査センターが本調査をおこなうことで協議が進められていたが、道路境界の構造物工事を先行しておこなう必要が生じたため、道路拡張部分の端部幅2.6m、延長43mについて、文化行政課が主体となり実働4日間で本調査を実施した。

調査区では、厚さ20cmの耕作土と15cmの包含層の下に遺構面があらわれ、検出遺構は弥生時代から古墳時代と推定されるものと時期不明の溝状遺構6条、土坑1、柱穴1である。遺物は土器片が28点入りコンテナ1/2箱分出土した。SD01（幅1.4×深0.7m）とSD02（幅0.3×深0.15m）は遺物が検出されず時期不明。SD03は上層とした幅1.2×深0.4mの凹地から弥生時代後期の土器片が比較的多く検出されている。下層は幅6×深0.7mの規模で旧河道とするべきかもしれない。SD06は幅1.3×深0.3mの規模である。上下層に分類したものが2条の溝である可能性が高い。上層からほぼ完形の小型丸底壺が出土している。

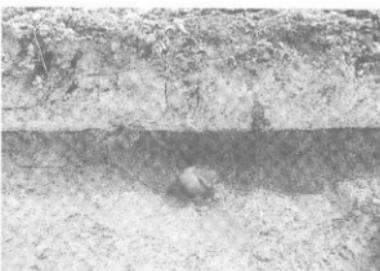
至近で行った試掘調査の際には、SD03上層に相当する部分から多量の土器片を検出しており、近辺に弥生後期から古墳時代にかけての集落が存在する可能性が考えられる。なお、本国道の工事によって断片的に遺構が確認されており、これらを一括して川津六反地Ⅱ遺跡と仮称しているが、遺構内容が確認された段階で遺跡名を整理する必要があろう。（木下）



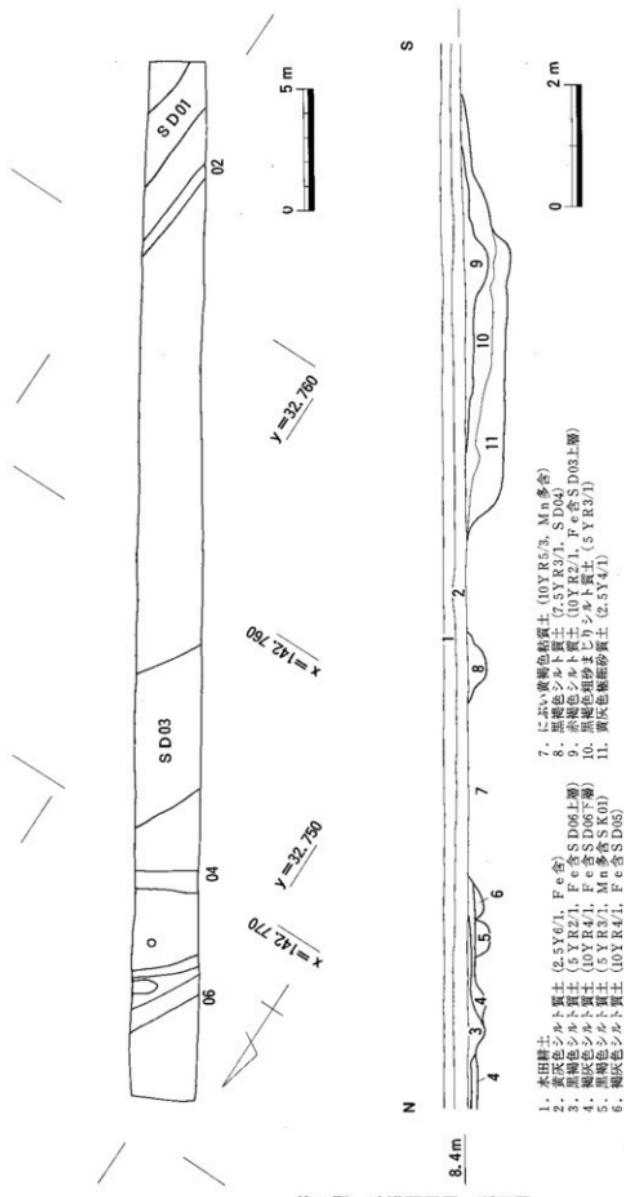
第1図 調査位置図（「丸亀」）



第2図 全景（北から）



第3図 SD06 断面



第4図 遺溝配置図・断面図

1. 本田耕土 (2.5Y6/1, Fe含)
2. 黄灰色シルト質土 (5YR2/1, Fe含 S D06上層)
3. 黑褐色シルト質土 (10YR4/1, Fe含 S D06下層)
4. 黑灰色シルト質土 (5YR3/1, Mn多含 S K01)
5. 黑褐色シルト質土 (10YR4/1, Fe含 S D05)
6. 黑灰色シルト質土 (10YR4/1, Fe含 S D05)
7. 黃褐色粘質土 (10YR5/2, Mn多含)
8. 黑褐色シルト質土 (7.5YR3/1, Fe含 S D04)
9. 黑褐色シルト質土 (10YR2/1, Fe含 S D03上層)
10. 黑褐色細砂質土 (5YR3/1)
11. 黄灰色極細砂質土 (2.5Y4/1)

こくぶだいいせき 国分台遺跡

1. 所在地 綾歌郡国分寺町国分
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年2月24日～3月6日
4. 調査面積 4 m²
5. 調査担当者 文化行政課 木下晴一
6. 調査の原因 自衛隊演習施設設置
7. 調査結果の概要

自衛隊演習場内に所在する国分台遺跡については、旧石器が多量に散布している最重要地区については立入禁止、その他についても、掘削など遺跡に影響を及ぼす行為はおこなわないことで自衛隊の協力を得、遺跡保護を計ってきた。しかし、盛り土による演習施設を構築することが計画されたことから、試掘調査を行いその取扱いを検討することとなった。

試掘範囲は自衛隊演習場内の国分台西南隅付近で、大部分が植生の無い裸地であり、多数のサヌカイト片が散布している。試掘調査は、天候等の都合で測量および分布調査に1日、発掘調査に4.5日を費やし、1×1mの4グリッドの調査をおこなった。

第4図は、グリッドの断面図である。各グリッドから各40点程度のサヌカイト片を採集した。これらは遺物ではなく、地表面に散乱しているのと同様の破碎されたサヌカイト片であった。出土位置はすべて後世の攪乱を受けた層中である。なお、過去の調査の所見からサヌカイト片出土層より下層に旧石器が含まれる可能性があったが出土しなかった。また、火山灰層も検出されなかった。

今回の調査では地表面および地表から10cmほどの深さの攪乱層のみにサヌカイト片が含まれていたが、地表面には旧石器の散布が確認される。散布する旧石器は、見学者の採集など、さまざまな機会に持ち去られており、今後、さらに遺跡の内容を確認するとともに保護措置について検討する必要があろう。(木下)



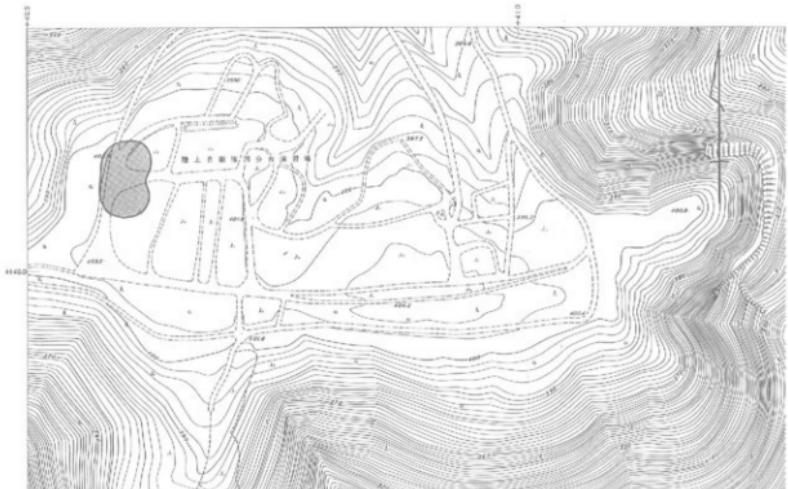
第1図 遺跡の位置（「白峰山」）



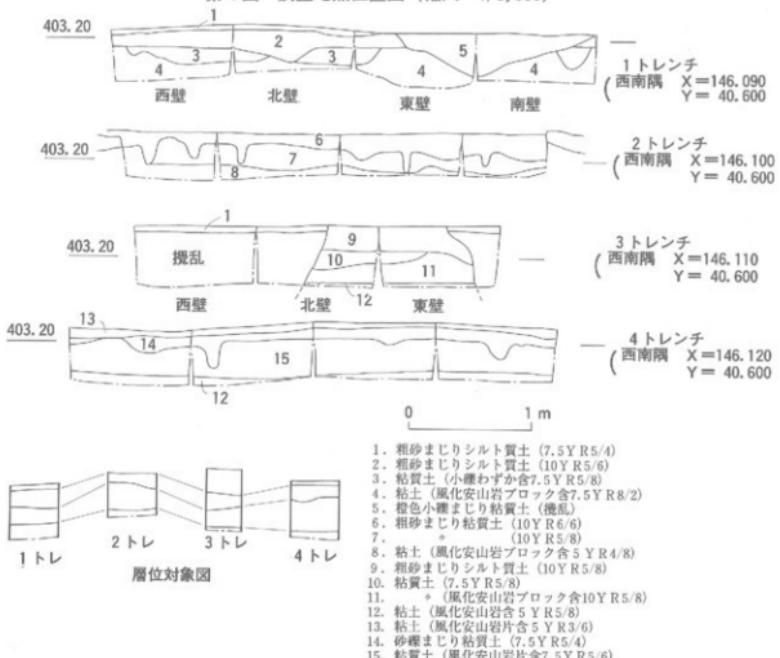
第2図 調査地遠景（東から）



第3図 サヌカイト片 出土状況



第4図 調査地点位置図 (縮尺 1/5,000)



第5図 グリット断面図

かみ 上 新 開 つか 塚

1. 所在地 高松市岡本町上新開4—1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年9月3日～9月5日
4. 調査面積 約30m²
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 県道千疋高松線建設
7. 調査結果の概要

標記の塚は、平成8年度に実施した同路線建設に伴う分布調査時に発見されたもので、戦後間もなく旧地権者が畠開墾中に須恵器壺を掘り出し、塚を作つてその中に壺を安置したものである。この須恵器壺は、8世紀中葉に比定されるもので、その形態から当該期の火葬墓に伴う骨壺である可能性が高いと判断された。

調査の結果、現在壺を安置した塚が所在する

約1m西よりで径約70cm程度の墓坑が検出された。墓坑は長径30cm程度の長楕円形の川原石を周間に貼り付けて構築しているが、その中の半数弱は、骨壺を取り出した際の攪乱により抜き取られたり、墓坑内に倒れ込んだ状況が確認された。さらに、墓坑内の埋土下半は木炭層で充填されており、全てについて洗浄選別を行ったが骨片等は出土していない。一方、骨壺を取り出す際に欠損したとみられる壺口縁部の破片が墓坑内に倒れ込んだ河原石と共に出土しており、この遺構が掘り出された骨壺に伴う火葬墓であることが確実となった。なお、壺に伴う蓋の破片も出土しているがその形態から、当該期の壺蓋の蓋を転用したものである可能性が高い。

8.まとめ

香川県下において古代の火葬墓の埋納状況が明らかになった例は丸亀市の郡家田代遺跡のみで、石窯を持つ埋葬施設は初めての確認例であることから当時の埋葬形態を知るうえで貴重である。なお、骨壺内部は現在肩部まで土が充填されている状態で、発見者は内部の確認をしていないこと、肉眼で骨片らしきものが確認できることから考えて内部は埋葬当時の状況で保存されているものと考えられる。(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「高松南部」）



第2図 埋納遺構検出状況



第3図 塚内に安置されていた骨蔵器

木太本村 II 遺跡

1. 所在地 高松市木太町本村
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年6月17日～7月15日
4. 調査面積 20m²
5. 調査担当者 文化行政課 木下晴一
6. 調査の原因 中小河川宮川改修
7. 調査結果の概要

高松平野を流れる宮川は、条里型地割の阡陌に流路を固定した人工河川である。平成9年6月に工事現場を立会調査したところ、河岸擁壁工事の掘削断面に木組の井戸が露出しているのを確認した。協議の結果、遺跡の拡がりを確認するための試掘調査を実施し、その結果によつて取扱いを決めることになった。しかし、この

直後に相次いで3つの台風が接近したほか、工事の掘削深度が深く下層に軟弱層があらわれ法面崩落が進行し、遺構の保存が極めて難しい状況となり緊急に調査を実施した。調査は上記期間のうち実働7日で行った。

調査地は現在は高松平野の海岸線から内陸へ直線で約2kmほどの地点であるが、掌状にのびる香東川扇状地の扇端部に位置し、古代においては比較的海岸に近い位置であったと思われる。北側には高松平野では低地に立地する点で特徴的な白山神社古墳が所在し、海上交通との関連が想定されているなど、検出遺構の立地を考える点で暗示的である。

井戸は、「縦板隅柱横桟どめ」（宇野隆夫の分類による）と呼ばれるタイプで、検出面より井戸底までの深さ2.2mで、縦板で囲まれた内辺は約90cmである。出土遺物は僅少で、8世紀代の須恵器、土師器片が若干、斎串1点が出土している。数度にわたり井戸周辺での試掘調査を実施したが、奈良時代の遺構面はすでに工事により削平されていると考えられた。平城京などでも多く見られる比較的大型の井戸が単独で所在するとは考えられないから、周辺での試掘調査を継続する必要がある。（木下）



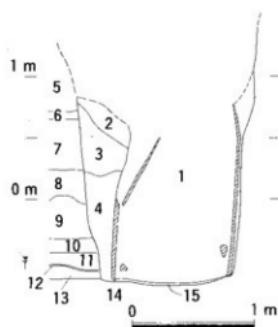
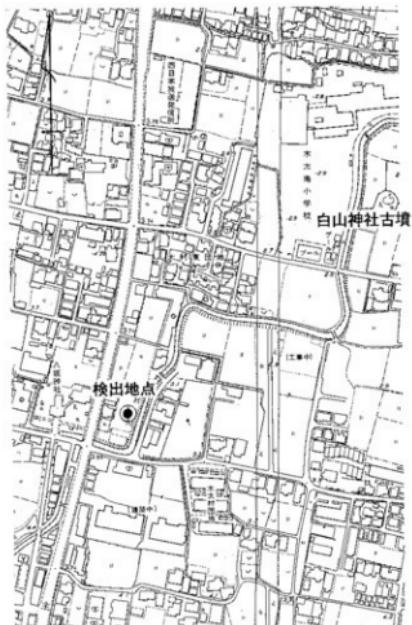
第1図 遺跡の位置（「高松南部」）



第2図 調査地遠景（北から）

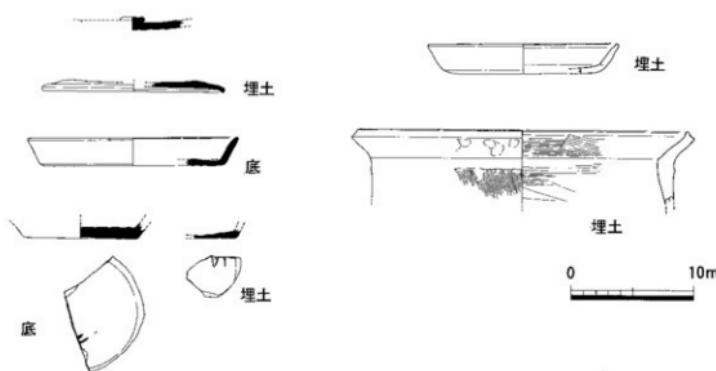


第3図 井戸断面



第4図 調査地位置図 (縮尺1/5,000)

第5図 井戸断面図



しろ 城 ノ 内 い れ き 跡

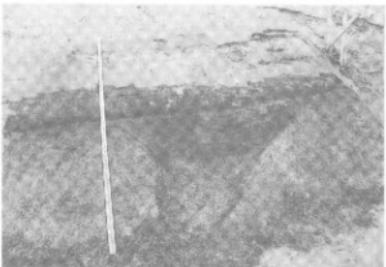
1. 所在地 大川郡大内町水主字別所
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年11月25日
4. 調査面積 約30m²
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 城の内池改修事業
7. 調査結果の概要

調査地は、虎丸山から、与田川に向かって八ヶ手状に派生する尾根によって形成される谷間に形成された小規模な池内に位置する。池の名前のとおり、虎丸山頂部には中世城館跡として著名な「虎丸城跡」が所在し、これまで調査地近辺で多數検出されている遺跡の状況からも、当該地域一帯で同城跡と密接な関連を持つ遺跡が広範囲に広がる可能性が高い地域であった。

今回の池の堤防改修及び一部浚渫に伴う調査の結果、幅約1.6m、深さ約1.4mの溝状遺構を1条検出し、最下層の暗灰色砂粒土層から弥生時代後期の土器片、上層の黒色シルト層からは中世の土器片が出土している。調査地は比較的狭い谷の奥部に出口するものの、調査結果から、生活域は谷内のさらにお奥で想定しなければならない。

8.まとめ

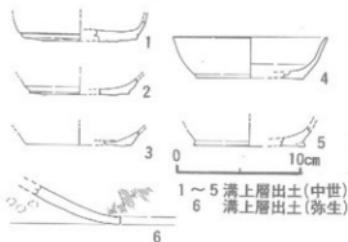
調査地の所在する谷の西側の谷は虎丸山頂上へ向かう数少ないルートの1つとして聞く大きな谷であることから、この付近一帯に進入を防ぐ何らの施設が設けられていた可能性は否定できない。ただ、今回出土した遺物は虎丸城が機能した時期よりも時期的に遡る可能性があり、また、城跡と直接関連を持つような遺溝は検出されなかったことから近辺の調査例の増加を待って判断すべきであろう。今回の調査成果としては、本来、池から与田川一帯にかけて周知されていた同遺跡が池内まで及びさらに谷奥まで広がる可能性があることを挙げておきたい。(塩崎)



第2図 堤防断面で検出した溝



第1図 遺跡の位置（「三本松」）



第3図 出土遺物完測図

成重遺跡

1. 所在地 大川郡白鳥町白鳥字成重
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成9年5月27日
平成9年6月12日
平成9年7月25日
4. 調査面積 約170m²
5. 調査指導 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 県営は場整備事業
(白鳥上地区)
7. 調査結果の概要

調査地は、近年の高速道路建設等に伴う調査で、弥生時代～中世に至る集落跡が大規模に検出された同遺跡周辺部である。今回は、標記事業に伴い事前に遺跡の広がり及びその内容を把握し、適切な保護措置を図るためにトレンチ調査を実施している。調査は第2図のとおりトレンチを設定し、調査結果は第3図一覧表のとおりである。結果的に、弥生時代を中心とする遺構・遺物をほぼ全てのトレンチで検出し、同遺跡が広範囲に広がることが判明した。また、5トレンチで検出した遺跡は8世紀代の所産で、従前の調査成果と同様に複数の遺構面が所在する範囲が多いことも判明している。ただ、弥生期の遺構については、隣接する高速道路予定地内の調査区より北側一帯では、比較的遺構密度が低く、竪穴住居や集石等は検出できなかった。遺構面直上の包含層から出土する遺物をみても摩滅した細片が多く、旧自然流路の影響を比較的受けやすかった範囲との想定もできる。逆に、調査地南側では、比較的濃密に遺物を含む包含層及び集石を検出したことから、集落域及び墓域が広範囲に広がる可能性が高い。ただ、今回の調査は遺跡の有無確認を主眼においていた調査であったため、その内容・性格等について言及するだけの資料は得られていない。今後、周辺部の調査成果を蓄積して遺跡の全容を解明する必要がある。

以上の結果から、第2図に示す範囲は成重遺跡が広がるものとして、今後文化財保護法に基づく適切な必要と判断された。なお、標記事業に伴う事前の保護措置として、排水管理設工事等の僅かな掘削を除いて、大部分が設計変更によって盛土保存されている。

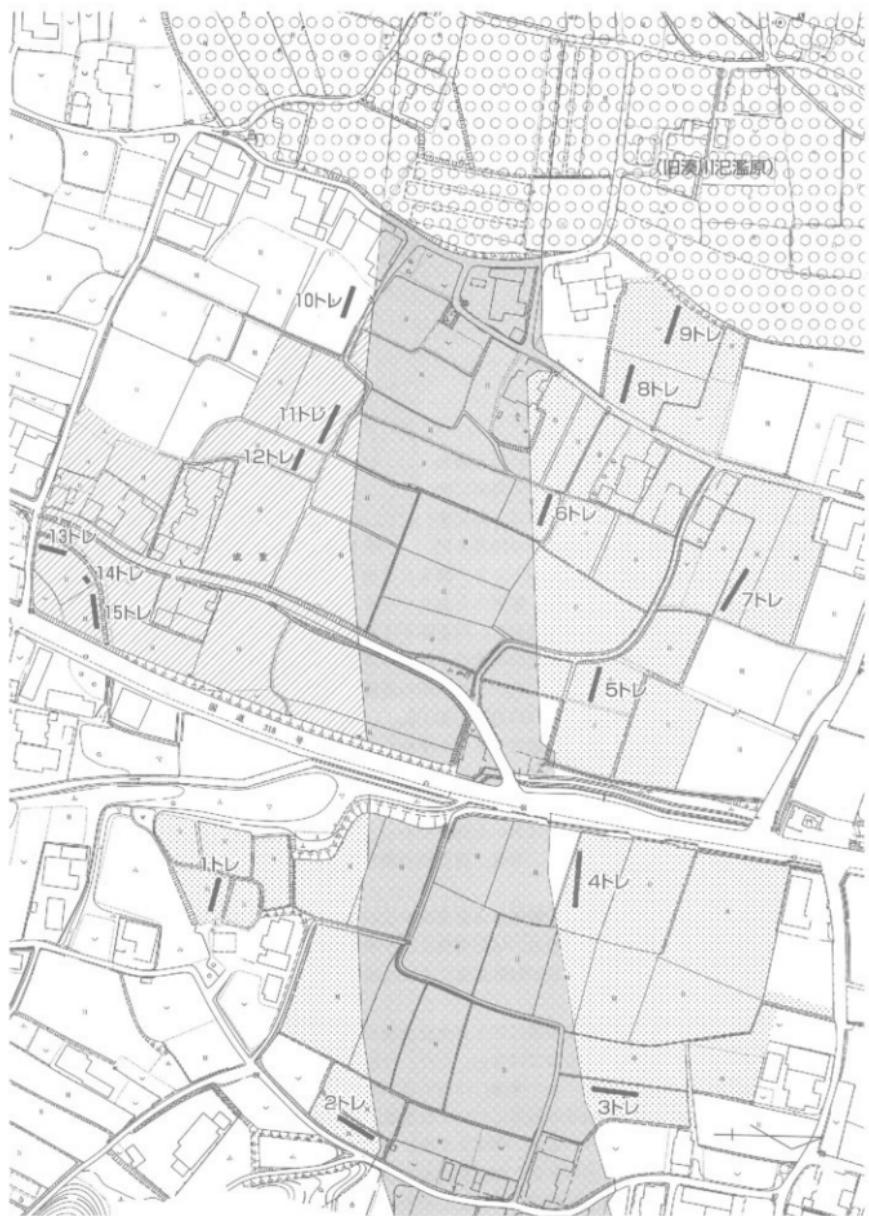
8.まとめ

今回の調査は、あくまで標記事業に伴う有無確認調査だったので第2図に示した範囲は成重遺跡本来の広がりを示したものではない。ただ、今回の調査により、その東限については旧湊川氾濫原から一段高い範囲、また西限については、池の奥遺跡に抜ける谷部までとほぼ限定できるようである。ただ、南北の境界については遺跡がさらに広範囲に広がる可能性が高く今後の確認調査が必要であろう。なお、平成8年度に確認した成重遺跡に隣接する一部南遺跡については、遺跡の位置・内容及びその継続性から成重遺跡と同一性を持って捉えられることが可能との判断から、今後遺跡の乱立を防止しその統一を図るため「成重遺跡」に変更することとする。



第1図 遺跡の位置（「三本松」）

(塩崎)



第2図 成重遺跡範囲図 (S=1/2,000)

■ …成重遺跡(横断道) ■ …成重遺跡(ほ場整備) ■ …成重遺跡(旧一部南遺跡)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	特記事項
1	1.2×14.5	溝状遺構	弥生土器片	現地表下約30cm程攪乱を被っているが、さらに40cm程下層で弥生土器を比較的良好に含む暗灰褐色砂粒土を埋土にもつ溝を検出した。
2	1.2×15.5	土坑	弥生土器片 須恵器片	現地表下約55cm程で薄い土器包含層が所在し、直下で方形になる可能性の高い土坑を検出した。隣接地の調査成果から墓坑の可能性も考えられる。
3	1.5×13.0	柱穴跡 土坑	弥生土器片 土師器片	遺構面は現地表下約60~70cmに所在し、茶灰色砂粒土をベースとし、黒褐色砂粒土を埋土にもつものである。
4	1.5×14.5	柱穴跡	弥生土器片	遺構面は現地表下約50~60cmで検出され、上層の遺物包含層は東から西へ緩やかに上昇し、トレンチ西端では現地表下約30cmから検出される。出土遺物からいざれも弥生時代後期の所産であろう。
5	1.3×7.0	柱穴跡 土坑 溝	弥生土器片 土師器片	耕作土下約35cmに遺構面が所在する。概ね古代の所産で、下層に弥生期の遺構面が所在すると想定される。
6	1.3×10.0	柱穴跡	弥生土器片 土師器片	耕作土下約60cm程下に遺構面が所在するが、上層は厚い砂礫層で覆われている。
7	1.3×12.0	溝	弥生土器片	耕作土下約55cm下に遺構面が所在するが、上層は弥生後期の土器を少量含む厚さ約30cmの包含層が所在する。
8	1.3×9.7	旧流路 (時期不明)	弥生土器片	耕作土下約50cm程下に弥生土器片を少量含む包含層が所在するが、遺構面は認められない。
9	1.3×10.2	柱穴跡 土坑	弥生土器片	耕作土下約80cmに遺構面が所在し、少量の弥生土器片が出土したが、上層に包含層等は認められない。

第3図 各トレンチの概要

※10~15トレンチについては下記文献を参照。

「埋蔵文化財試掘調査報告X - 香川県内遺跡発掘調査 - (一支部南地区)」平成9年3月



第4図 3トレンチ全景（南より）



第5図 3トレンチ（遺構検出状況）



第6図 4トレンチ全景（東より）



第7図 5トレンチ（遺構検出状況）



第8図 6トレンチ全景（西より）



第9図 7トレンチ全景（西より）



第10図 8トレンチ全景（東より）



第11図 9トレンチ全景（西より）

しおやかわきたいせき 塩屋川北遺跡

1. 所在地 大川郡引田町小海字川北
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年3月25日
4. 調査担当者 文化行政課 木下晴一
5. 調査の原因 県道白鳥引田線建設
6. 調査結果の概要

四国横断自動車道引田ICのアクセス道として整備が進められている県道白鳥引田線については、計画路線の遺跡分布調査をおこない、一部については試掘調査を実施した。試掘をおこなった地点は旧河道にあたると推定したが、南部に一部微高地がかかるごと、東側に条里地割が遺存していることが注意された。試掘調査は、小海川の支流に接する地点で平成9年3月11日におこない、予想通り水田耕作土直下に縦まりの悪い砂礫層が現れた。湧水の激しいなか1mほど掘り下げ、遺物が含まれしていないことを確認し、埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。

平成9年度末になって、本体工事の施工中に県教委が委嘱している文化財パトロール員より遺物が出土しているという情報が寄せられ、現地の確認をおこなった。遺物が出土したのは、用水路を河川下に伏せ越すための工事ヤードで、周りを鋼矢板で閉い、現地表から約5m掘り下げた地点の砂礫層中からである。砂礫は径1~5cm程の亜円礫を中心とする河川堆積物で、この層中に古墳時代の須恵器、土師器などの破片が含まれていたが、出土層位は鋼矢板に貼り付く土器片が地表面から4m下で確認できた以外は不明である。掘削した土に含まれる土器細片の量の観察から、堆積物中に比較的多くの遺物が含まれているようである。

今回の遺物発見は、旧河道の堆積物に含まれるものであることから、これ以上の保護措置はおこなわないこととしたが、上流側の近辺に古墳時代の集落の存在が想定できること、また、遺跡密度の低い当地域において、想像以上の深さに遺跡が埋没している可能性が考えられるここと、また、地形発達を検討する資料として評価することができる。なお、出土遺物は引田町歴史民俗資料館において保管している。(木下)



第1図 遺跡の位置(引田)



第2図 遺物出土地点



第3図 出土遺物

とみおかこふんぐん 富丘古墳群

1. 所在地 小豆郡土庄町淵崎
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成8、9年度
4. 調査の原因 県史跡の測量委託
5. 調査結果の概要

県教委では、県史跡の保存管理の基礎資料とするため測量委託事業をおこなっている。平成8、9年度には、小豆島の富丘古墳群の測量委託事業をおこなった。委託内容は、縮尺200分の1、等高線間隔25cmの平板測量図の作製である。

県史跡富丘古墳群は、土庄町の中心街の東の丘陵（標高70m）を中心に所在し、富丘八幡神社本殿裏の「頂上墳」、神社から双子浦展望台にかけての尾根稜線上に並ぶ8基の古墳、展望台の古墳、東南の小島上の古墳が指定対象である。このうち、頂上墳が第2次大戦末期に不時発見され（『史蹟名勝天然紀念物調査報告 第十』香川県）、竪穴式石室から銅鏡・銅鏡・板状鉄斧・袋状鉄斧などが出土している。古墳群は昭和25年の福家惣衛による現地踏査によっても墳形の破壊が報告され（『史蹟名勝天然紀念物調査報告 第十四』香川県）、土壤の流失による墳丘破壊が進み、現状では埋葬施設と思われる河原石が露出する個所もある。

第4図は、神社から双子浦展望台にかけての尾根稜線上に並ぶ8基の古墳のうちの高いほうから3基の古墳の測量図である。墳形については様々な見解があるが、福家惣衛の観察では、北側が円墳で次を前方後円墳としている。現地踏査では北側の古墳が前方後円形になる可能性が考えられた。前方後円墳であれば全長25mほどの規模となるが、測量の結果は明瞭に前方後円墳であるとは断定できず、多くの古墳研究者に意見を求める結果も賛否両論の状況である。

従来、小豆島には前方後円墳は存在しないと考えられてきたが、今回の測量調査の結果、確定はできないものの富丘古墳群中に前方後円墳の存在の可能性が指摘できると思われる。現地では岩石と思われる河原石が露出している部分があるので、試掘調査等をおこなえば墳形が確定できる可能性がある。（木下）



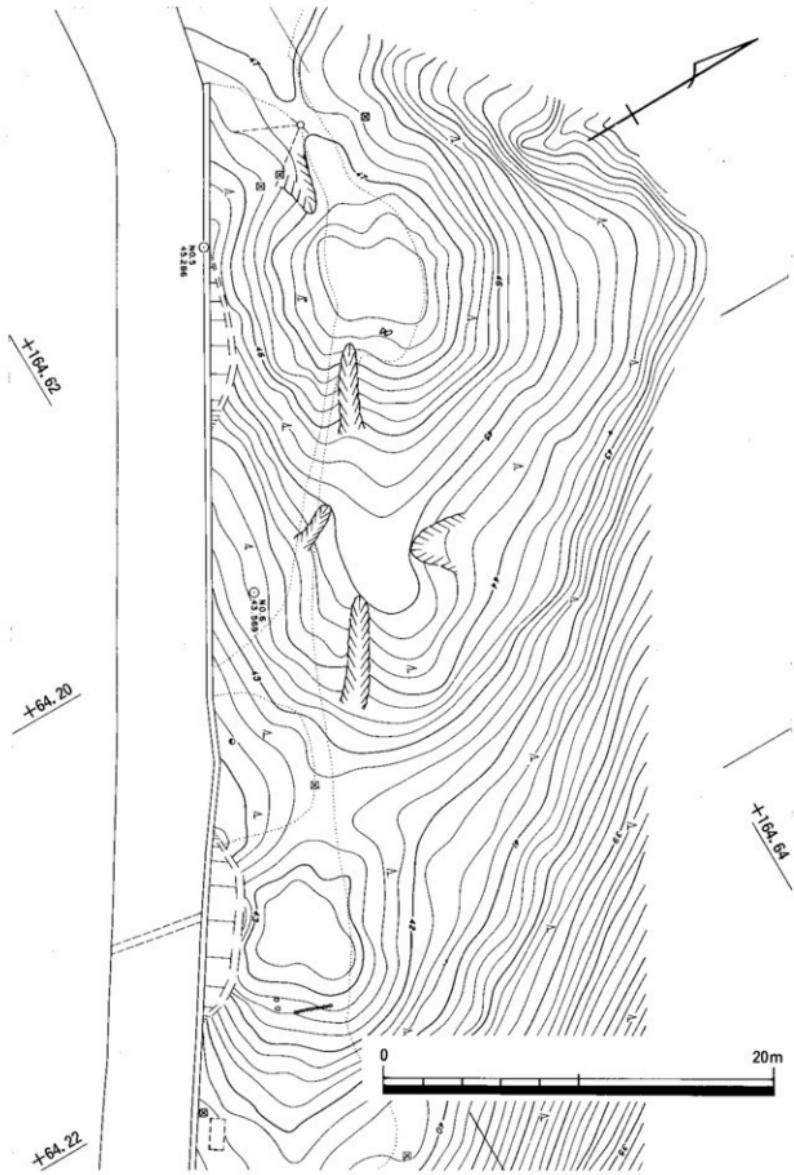
第1図 遺跡の位置（「土庄」）



第2図 古墳群遠景



第3図 露出した石室？（7号墳）



第4図 測量図

みや 宮 山 かま 窯 あと 跡

1. 所在地 三豊郡豊中町大字
比地大字宮ノ下3280番6
2. 調査主体 豊中町教育委員会
3. 調査期間 平成10年2月7日
～平成10年3月31日
4. 調査面積 80m²
5. 調査担当者 豊中町教育委員会 森 裕行
6. 調査の原因
官山窯跡遺跡の近くで農道工事がおこなわれ、
遺跡に影響がでる可能性ができたため。
7. 調査結果の概要
農道工事に伴い遺跡の拡がりの確認をすることにより保存対策を作成する必要が生じたためにおこなった調査である。窯跡推定地付近では昭和16年度に分布調査をおこなっているが、遺構は確認されず遺物だけの検出となっている。

今回の工事は既存の道の拡張である関係で設計段階で路線計画の変更を行い遺跡の保存を優先しておこなってきてはいるが、推定地の正確な判断は出来てはいない。このために遺跡推定地の道路側の部分にトレーニチを設定して遺構の確認を行うための調査をおこなった。トレーニチは道路に沿うようにやや南北に三ヶ所設定した。各トレーニチの東側で灰原層を検出することができた。灰原層からは初期の須恵器片が多数検出された。灰原層の検出は最大幅で約2メートルぐらいであり、今回建設された道路部分までの拡がりについては確認されなかった。

8.まとめ

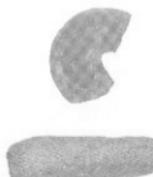
主な出土須恵器は初期のものではあったが、若干の時期のずれる須恵器も出土している。ただ時期のずれ幅が大きいため継続性はみられない。遺物自身にも若干のローリングがあるためにこの地の窯で焼製されたというよりも実際に使用されたものと考えられる。当初発見された時に出土している紡錘車が今回も発見されているので、この窯である程度の量が生産されていたと考えられる。今回の調査では須恵質の管状土錐が1点検出されているので、器としてのもの以外の生産についての窯の役割について考えさせられる。今回の調査結果より窯本体は調査地点より東側の山の斜面に拡がっているものだと考えられる。(森)



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 灰原層検出状況



第3図 出土遺物（上：紡錘車、下：管状土錐）

むね よし が よう あと 宗 吉 瓦 窯 跡

1. 所在地 三豊郡三野町大字吉津字宗吉
2. 調査主体 三野町教育委員会
3. 調査期間 平成9年11月6日
～平成10年3月26日
4. 調査面積 約340m²
5. 調査担当者 三野町教育委員会 白川雄一
6. 調査の原因 三野町内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

トレンチを9箇所設定し、掘削を行った結果、宗吉甲155-1（史跡内）に設定した7トレンチにおいて、15号窯の煙道付近の床面を検出した。他の調査区においては、同時期の造構、遺物は確認されなかった。

窯の構造は花崗岩風化粘質土の地山を切り貫き、床面に階段を削りだした「地下式有段登窯（容窯）」であることが判明した。階段は上から4段を検出している。一つの階段の高さは約35～40cmで、その奥行きもほぼこれに一致する。検出部分の床面の傾斜角度は約45度である。特徴的なことは、階段の上面平坦部が焚口側に向かってせり出すような構造をしていることである。このことは、窯の焼成部の傾斜角度が急であることから、焼成部の平面長が短くなることと関係があると推定され、瓦を置くための段ができるだけ多く作るため工夫とも考えられる。

窯本体はミカン畑の開墾等によって大きく損傷を受けており、一部では掘削が床面にまで及んでいる部分もある。窯の内部は還元を受け、青灰色を呈している。また、今回の調査範囲においては床面に粘土を貼った痕跡は認められなかった。なお、煙道の構造については、窯体の削平が著しく、不明である。

一方、15号窯から約3.4m東側で幅約100cm、検出面からの深さ約60cmの溝を検出した。古代の瓦を包含する層が確認されたことから、窯跡群の同時に機能していた可能性が高い。15号窯との位置関係から推測して、斜面からの水を迂回させ、窯前面部の谷や窯の南に位置する谷へ流していたものと考えられる。

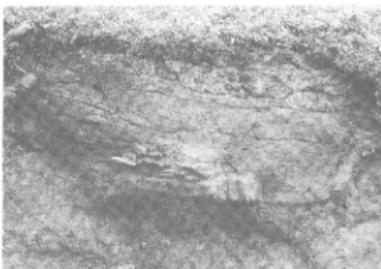
また、以前から国川池取水溝に露出していた11号窯の断面実測、写真撮影も合わせて行っていいる。（白川）



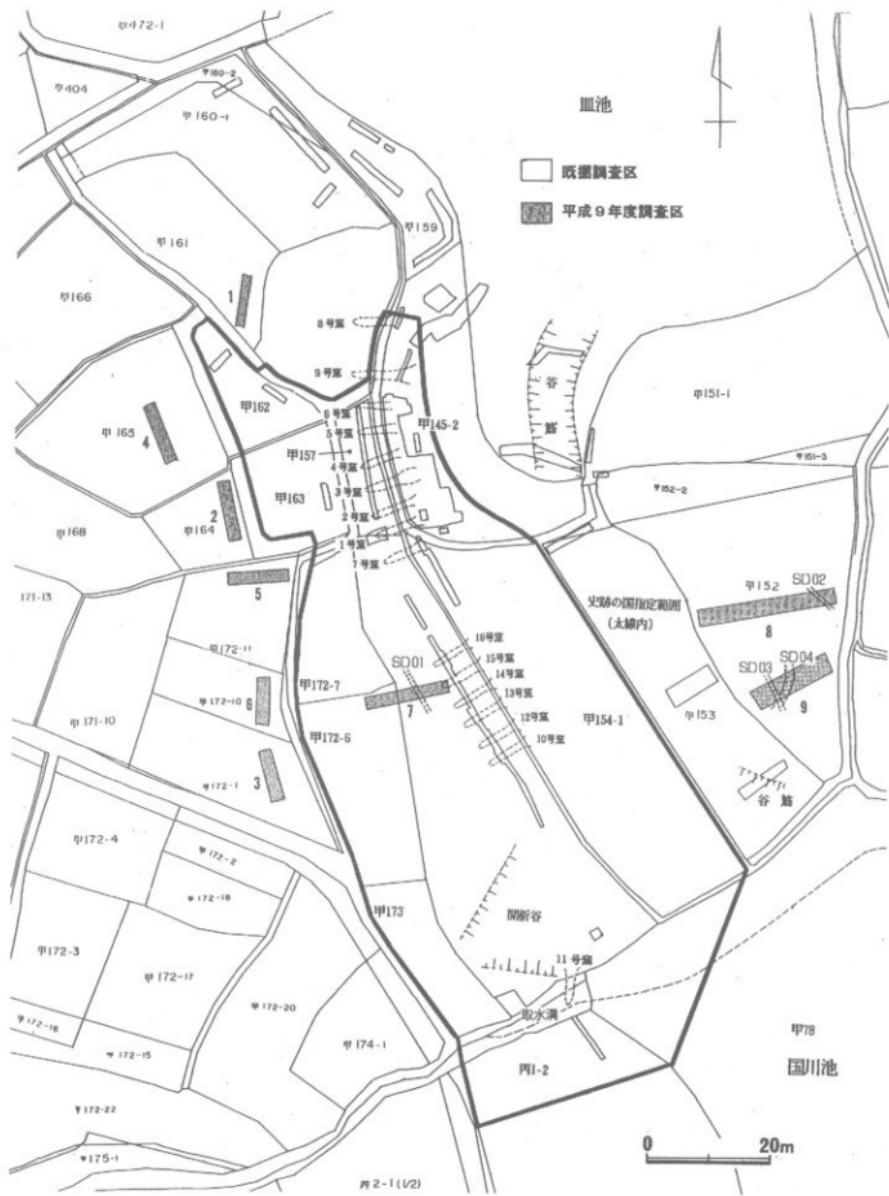
第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 15号窯跡床面の状況



第3図 11号窯跡の断面



第4図 トレンチ配置図 (1:800)

し せきありおかこふんぐん のたいんこふん
史跡有岡古墳群（野田院古墳）

1. 事業の場所 普通寺市普通寺町2830—196
2. 事業主体 普通寺市教育委員会
3. 事業の期間 平成9年4月～平成10年3月
4. 事業の面積 約1,213m²（史跡面積）
5. 事業担当者 普通寺市教育委員会

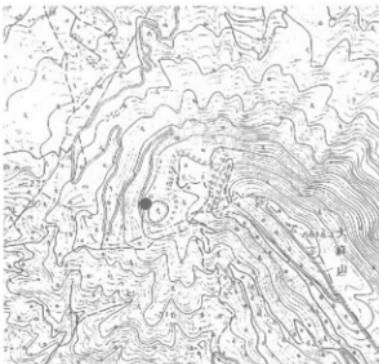
　　篠川龍一

6. 事業の原因 史跡有岡古墳群保存整備事業
7. 事業の概要

史跡有岡古墳群中の王墓山古墳と宮が尾古墳の保存整備事業が平成8年度で完了し、平成9年度からは大麻山の高所（標高405m）に所在する野田院古墳の保存整備事業に着手することとなった。野田院古墳は丸龜平野で最古級の古墳と考えられており、後円部が積み石、前方部が盛り土で構築された特異な構造であることは知られていたが、昭和49年に測量調査が行われた程度で、古墳の構築時期や特異とされる構造の詳細等は不明の状態であった。そこで、初年度は野田院古墳を構築当時の状態に正しく復元し、適切に整備するための資料を得るための発掘調査を実施することとなった。まず墳丘各所にトレンチを設定し掘削を行ったところ、盛土と考えられていた前方部も表面に後円部と同じ安山岩が葺かれていることが判明し、くびれ部では多量の壺型土器が出土した。また、くびれ部では前方部の葺き石から連続する後円部の基底部も検出され、現在では荒く盛られているように見える積み石も、構築当時は整然と積まれていたらしいことが判明した。

8. まとめ

くびれ部で出土した壺型土器は壺型埴輪祭祀に使用されたものとみられる。これは布留0式に相当するもので、野田院古墳の構築時期を知る上で注目される。発掘調査は平成10年度も継続して行い、後円部の基底部全体の検出、二段築の有無の確認、墳丘周辺での関連遺構の有無の確認などを行う計画である。また今回の調査で新たに確認された第2主体部や石室と墳丘の構築の状態も併せて調査する計画であり、成果が期待される。（篠川）



第1図 遺跡の位置（「普通寺」）



第2図 野田院古墳全景（北西から）



第3図 南東側くびれ部検出状況（南東から）

きた やま うわ だ い せき
北山・上田遺跡

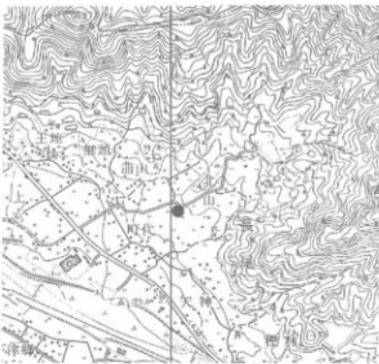
1. 所在地 仲多度郡満濃町大字長尾
2. 調査主体 満濃町教育委員会
3. 調査期間 平成9年10月28、29日
- 12月15日
4. 調査面積 160m²
5. 調査担当者 満濃町教委 堀田一夫
文化行政課 木下晴一
6. 調査の原因 天神地区団体営は場整備事業
7. 調査結果の概要

満濃町における埋蔵文化財保護行政は、主として周知の遺跡について行われ、存在の知られていない遺跡の保護は十分ではなかった。しかし、町代2号墳の調査において弥生および古代以降の集落跡が検出されたことから、未知の遺跡が存在することが明確となり、当地周辺でおこなわれるは場整備事業に先だって本格的な試掘調査をおこなうこととした。

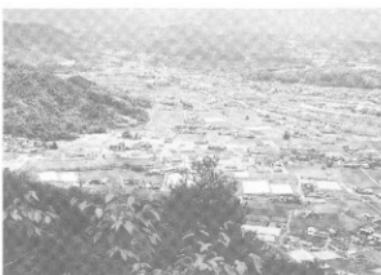
試掘対象地は、土器川右岸で河川とは25mの比高がある段丘上にある。北に西長尾城、南に金丸城と呼ばれる中世の山城があり、至近には「土居屋敷」と呼ばれる平地城館の可能性のある小地名が遺存している。また、周辺には各所に五輪塔およびその残欠と考えられる遺物が散在している。現在、段丘上は比較的の面積の広い水田が拡がり、一部で赤色化した土壌が認められるほかは黄褐色の土壌であり、大規模な削平を受けていると推定された。分布調査の結果、は場整備によって切り土をする範囲を中心にトレーニングを設定した。

調査の結果、多くのトレーニングで中世後半と考えられる遺構・遺物を検出した。遺構は柱穴・土坑・溝で、調査面積と遺構の検出状況からみて、かなり濃密に遺構が拡がるものと推定される。したがって、当初推定した削平は中世後半のものである可能性がある。

以上のことから、図に示す範囲に中世後半の集落遺跡が拡がると判断し、小字から「北山・上田遺跡」と呼称することとした。なお、事業の実施によって遺跡が影響を受ける範囲については、盛土により保存することとなった。(木下)



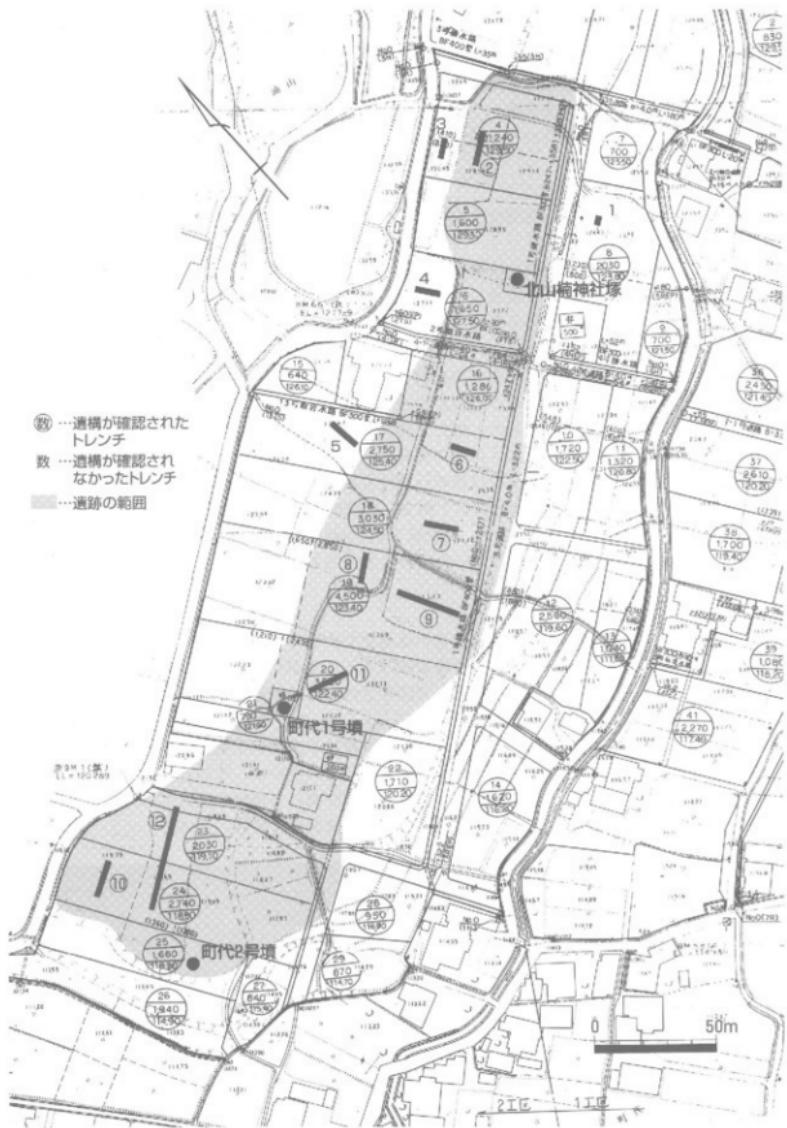
第1図 遺跡の位置(「善通寺」「滝宮」)



第2図 遠景(圃場整備中の範囲)



第3図 遺構検出状況



第4図 トレンチ配置図

きた やま くすのき じん じや づか こ ふん
北山楠神社塚古墳

1. 所在地 仲多度郡満濃町長尾
2. 調査主体 満濃町教育委員会
3. 調査期間 平成9年10月27日～11月8日
4. 調査面積 120m²
5. 調査担当者 片桐 節子
6. 調査の原因 天神地区団体営ほ場整備
7. 調査結果の概要

調査は、石室羨道部外の東西のは場と墳丘北側の裾からその北側のは場で実施した。

この古墳の立地は2m程度の段差を持った東西2枚のは場に位置していることから、大きく破壊を受けているものであるが、古墳南の東西のは場では須恵器・土師器等の少量の遺物が出土したもののが確認できなかった。墳丘北側やは場も大きく削平・盛土されているが、は場の境界で周濠を検出したため、さらに東のは場の一部にも調査を広げた。周濠の残存状況は良好で、検出規模は幅約1.5～2m、深さ約0.7mを測る。周濠内からは少量の弥生土器と土師器が出土したが、いずれも細片である。なお、周濠底で幅0.4m、奥行0.7m、厚さ0.35mの花崗岩の巨石を確認した。周濠掘削時から据え置いたものと考えられる。また、石室については現状のままで測量を実施した。

8. まとめ

今回の調査では、古墳の西側半分は後世のは場化で大きく削平を受けていたものの、東側の一部ではあるが、比較的良好な状態で周濠を確認することができた。それから推定すると径約10m以上の円墳と考えられる。石室は現状で保存されるため測量のみを実施したが、玄室長約3.3m、幅約2.05～1.8m、高さ約2m、現存羨道長1.6～3.9m、幅1.1m、高さ約1.35mを測る両袖式の横穴式石室である。石室に使用されている石材はその多くが花崗岩で、少量安山岩と砂岩で構築されている。時期を確定できる遺物は出土していないが、その石室形態から古墳時代後期のものと考えられる。なお、石室内の石材にはひび割れ等損壊を受けているものが多く、崩落した石材もいくつか認められ、石室崩壊の危険性は非常に高い。(片桐)



第1図 遺跡の位置〔「善通寺」「滝宮〕



第2図 北山神社塚古墳（南方向から）



第3図 周濠検出状況

町代 2号墳・町代遺跡

1. 所在地 仲多度郡満濃町長尾
2. 調査主体 満濃町教育委員会
3. 調査期間 平成 9年 4月25日～6月9日
4. 調査面積 292m²
5. 調査担当者 片桐 節子
6. 調査の原因 天神地区団体営ほ場整備
7. 調査結果の概要

調査区は平成 8 年度に実施した部分の南側に位置し、表土を重機により掘削し、それ以後は人力で遺構検出に努めた。遺構は前年度の調査と同様、町代 2 号墳の周濠と弥生時代の柱穴・中世と考えられる多くの柱穴、土坑等を検出した。町代 2 号墳の周濠は、残存状況は非常に悪く、検出規模は幅約 2～3 m、残存深約 0.1 m を測る。埋土内からは埴輪片・須恵器が出土した。埴輪には、円筒埴輪の他、馬形埴輪等形象埴輪も出土している。弥生時代の遺構としては掘立柱建物址 2 棟を検出したが、残存状況は非常に悪く、遺構内から遺物は出土しなかった。中世と考えられる遺構は柱穴・土坑である。遺構内から土師器壺・皿等が出土した。

8.まとめ

前年度の調査では極一部を確認したのみであった町代 2 号墳の周濠は、今回の調査によってそのほとんどを確認することができた。やはり、残存状況は悪いものの、周濠内からは多くの埴輪片・須恵器が出土し、その出土状況には、数ヶ所のまとまりが認められた。埴輪片は摩滅が著しく、調整が看取できるものは多くなかったものの、黒班を有するものは認められなかつたこと、2 次調整を欠くこと、タガの断面の突出が弱いことなどから川西編年の V 期と考えられ、その他の出土遺物からも町代 2 号墳は 6 世紀の初め頃築造された径約 16 m の円墳と考えられる。その他、弥生時代及び中世の集落址の存在も確認されたが、中世頃、この地が開発された際、町代 2 号墳も破壊を受けたものと考えられる。(片桐)



第 2 図 周濠内遺物出土状況



第 1 図 遺跡の位置(「善通寺」「滝宮」)



第 3 図 遺構検出状況

なかのいけいせき

1. 所在地 丸亀市金倉町994-1, 994-2,
1003, 1004, 1008, 1009, 1018-1
1019, 1030-1, 1031, 1032
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成9年5月1日
～平成9年12月15日
4. 調査面積 2,011m²
5. 調査担当者 松本考古学研究所 松本豊胤
6. 調査の原因 総合運動公園建設
7. 調査結果の概要

中の池遺跡は環濠をもつ弥生時代前期の集落跡であることが知られている。今回の調査では柱穴、土こう、溝跡や環濠と推定される溝跡を検出しており、弥生時代前期の土器や石器も大量に出土している。

調査地は平成7年度に試掘をして、遺構を確認した場所であり、昭和56年度調査で検出した溝跡の西側と南側にあたる。検出した遺構はこれに関連する同時期の柱穴や大量に遺物を包含する数条の溝跡である。また、この環濠から西側へ約100mの位置から平行して南北方向に走る三条の溝跡を検出している。東側の溝跡は最大幅5～6m、深さ約2mある断面V字形の人工掘削された溝跡である。この底から木製の未製品が出土している。中央の溝跡は幅約3.5m、深さ1.2mあり、西側の溝跡は幅4.5m、深さ1.6mある。これらの溝跡の東側から多くの柱穴や土こうを検出している。遺物は弥生時代前期の土器が多量に出土している。

8. まとめ

遺構面は、近年の水田耕作によりかなり消失しているが、溝跡や柱穴を検出している。これらの遺構に伴い弥生時代前期の土器片、石器が多数出土している。土器の器形は壺、甕、鉢が主で完形品もあり、いわゆる阿方系土器も出土している。石器はサスカイトの礫、削器、石錐、打製石包丁や磨製石包丁もある。木製の未製品や獸骨も出土している。中の池遺跡の西側100mの位置（N 2・N 3）から検出した大溝は環濠になる可能性が高く、遺跡範囲はさらに広がると思われる。



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第2図 出土遺物検出状況

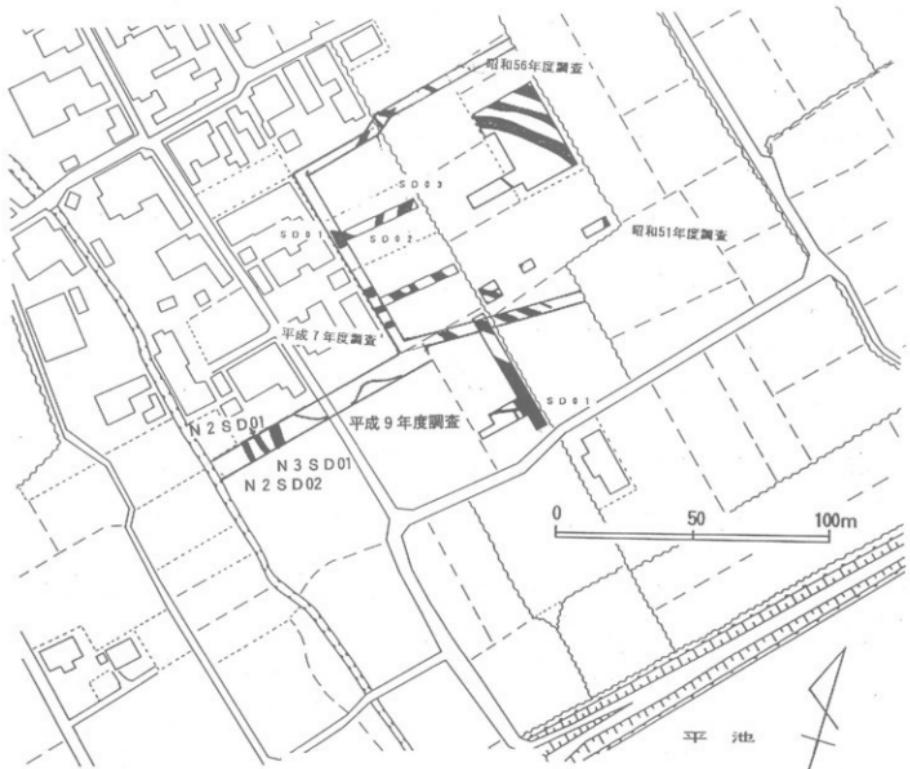
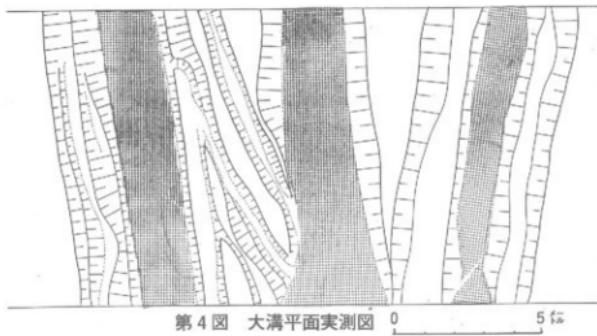


第3図 N 3 S D 01土層断面

N2SD2

N2SD1

N3SD1



たむらはいじあと たむらいせき
田村廃寺跡（田村遺跡）

1. 所在地 丸亀市田村町1745-1
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成9年4月11日
～平成9年5月2日
4. 調査面積 330m²
5. 調査担当者 東信男
6. 調査の原因 民間開発事業
7. 調査結果の概要

当該地は丸亀市遺跡地図の田村廃寺跡の推定範囲内に所在することから、遺構の有無を確認するため、埋蔵文化財試掘調査をした。調査は直交した57m×3mの東西トレンチと55m×3mの南北トレンチを設定した。地表下0.71～1.0mのところで溝跡や柱穴、集石遺構、河川跡を検出した。

溝跡は磁北方向とそれに直交するもの、北北西に流れるものがあり、時期差が認められる。中央部で検出した磁北方向とそれに直交する溝跡から布目や縄目、格子の叩き目のある瓦が出土し、南端の溝跡からは須恵器が出土している。柱穴は、東西トレンチの西端と東端で約20cmの大きさのものが約20個、東側半分で約60cmの大きさのものを9個検出した。東西トレンチの西側で弥生時代後期の土器を多量に含む集石遺構を検出した。

8. まとめ

調査地周辺は古代寺院の田村廃寺の所在地として知られ、県道を挟んだ向かいにある番神社には塔礎石がある。調査では奈良～平安時代の丸瓦や平瓦、平安時代の軒丸瓦などの瓦片が出土している。遺構は田村廃寺と同時代の柱穴と溝跡検出しており、特に東西トレンチの中央部から東側にかけて柱穴が密集している。これらの遺構は寺院に関連する可能性が高く、今後も保護措置が必要な場所である。また、これより以前の時期の遺構も検出している。東西トレンチ西側で弥生時代後期の土器片を包含する集石遺構があり、東西トレンチの両端で弥生時代後期の柱穴がある。近くにこの時期の集落が所在する可能性が高い。また古代までの溝跡や柱穴、土こうも多数検出している。(東)



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第2図 遺構検出状況



第3図 出土遺物

し せき まる がめ じょう あと
史 跡 丸 亀 城 跡

1. 所在地 丸亀市一番丁
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成9年7月11日

～平成10年3月31日

4. 調査面積 585m²
5. 調査担当者 東 信男
6. 調査の原因 史跡丸亀城跡保存修理事業
7. 調査結果の概要

三の丸大手口は大手門から山上に通じる見返り坂を登ったところにある。今年度の埋蔵文化財発掘調査は、三の丸大手口東側の東西約12m、南北約45mの長方形に張り出している場所である。東面の石垣は地表から約12～17mある高石垣で、最も傷みの著しい箇所である。

北面の石垣は、本来枠形を形成する石垣が直交して北に延びるが、取り除かれ棄損している。西面の石垣は、割石を用いた布積みであるが、途中から三の丸大手口にかけて二段に積まれた野面積みの腰巻き石垣と土壘になる。上段の野面積み石垣は、三の丸大手口の近くで取り除かれた痕跡があり、下段のものは上段の取り外した野面石を転用して、後世に積まれたものである。

張出先端部は、東西10～12m×南北約10m、高さ約2mの櫓台となり、内部は栗石が散乱する。土壘は粘質土で固められており、土壘と東面石垣の栗石の境界は碎石を用いた高さ約2mの石垣がある。この石垣は先端の櫓台南面石垣に接し、約1.5mの幅で三の丸東面石垣に平行して、延長約27mある。築城工法に関連のある石垣であるが、崩壊の危険性があり、全体の検出は石垣撤去時に確認する予定である。

また三の丸東面石垣に排水口があり、これに接続する凝灰岩製排水路を三の丸で検出した。三の丸大手口の排水路は造構面の掘削を受け消失している。この排水路は石垣基礎の調査でも検出しており、検出した場所は三の丸東面石垣の排水口のはば真下にあたり、三の丸の雨水を山麓まで処理する役目をもっている。

石垣基礎の調査は東面石垣の根石設置状況を確認した。①櫓台東北隅角部近く、②櫓台東南隅角部で最も石垣が棄損している箇所、③入角部の3箇所でトレンチ調査をおこなった。①では、東面石垣の根石は、東面石垣隅角部を補強している前面の石垣の栗石上に築かれており、栗石となる碎石に覆われている。③では、根石が碎礫の上に乗り、石垣前面も礫が配されている。②では、地中に埋まっている角石を6段検出したが、根石まで確認することはできなかつた。地中に埋まっている角石も割れており、角石にかなり、不均衡な荷重が掛かっていることが分かった。

8.まとめ

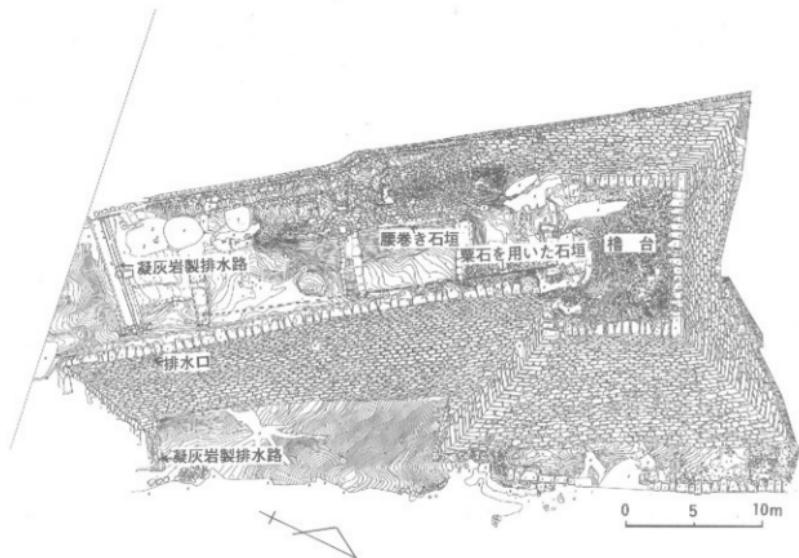
三の丸大手口東側には絵図・木図に番所と考えられる建物があるが検出されなかつた。大手口の造構面が掘削されていることに関連する。また、櫓台の石垣や西面の石垣なども取り外され、棄損している。



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）

また、石垣基礎の排水処理について、石垣前面の盛り土造成には、根石周辺には碎石や砂砾を配置しており、根石周辺に雨水が溜まることを防いでいる。検出した凝灰岩製の排水路が、山上から山麓まで繋がり、山上の各曲輪の雨水排水は山麓へ処理できるようになっている。

出土遺物について、城に係る遺物は瓦が数点出土したのみであるが、土壘の造成土の中から七世紀の須恵器が出土している。土壘の造成土も丸亀城のある亀山の土か近辺の土であり、丸亀城築城以前にも遺跡があったと推定される。(東)



第2図 史跡丸亀城跡三の丸東石垣発掘調査 平面実測図



第3図 栗石を用いた石垣



第4図 野面石を用いた腰巻き石垣

にし 内 い 遺 跡

1. 所在地 綾歌都飯山町東小川字樋ノ口
2. 調査主体 飯山町教育委員会
3. 調査期間 平成10年1月26日
4. 調査面積 約65m²
5. 調査担当者 生涯学習課 佐岡人志
6. 調査指導 文化行政課 塩崎誠司
7. 調査の原因 団体営は場整備事業
8. 調査結果の概要

調査地は、土器川東岸の平野部に位置し、現地形から幾筋かの大きな旧流路跡及び土器川氾濫原が認められるものの、その間に条里地割の痕跡が残存する個所も残される地域である。調査は、標記事業に伴い条里地割が残る範囲を対象に試掘調査を実施している。調査の結果、条里地割が乱れた個所で設定したトレーニチでは、摩滅した土器細片が僅かに出土するものの、砂層の堆積が厚く旧土器川の影響が大きかったものと推測された。一方、条里地割が安定して残る個所で設定したトレーニチでは、弥生時代前期前半の土器片を含む包含層(暗灰褐色粘質土層)をベースに9世紀代を中心とする遺構・遺物が検出されている。弥生時代前期の包含層については、出土遺物も僅かで明確な遺構も検出されなかったことから近辺に当該期の集落跡の存在が想定し得るのみであるが、9世紀代の土器片を多量に含む溝については、その方向が現存条里痕跡とほぼ一致し、当該地域の条里施工期を検討する上でも貴重な資料であろう。

9. まとめ

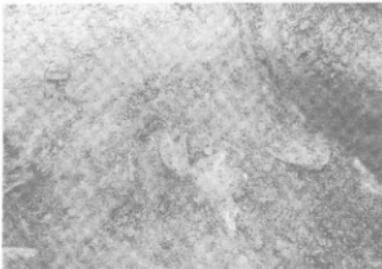
今回の調査は試掘調査にとどまったため、遺跡全体の内容を把握することはできなかつたが、弥生時代前期及び9世紀代の生活痕跡は条理地割の残るほぼ全域に広がる可能性が高いと推察される。現状においても、遺跡想定範囲は他よりも若干高いことから、土器川によって形成された自然堤防上を中心に土地利用がなされた状況が把握できる。(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「普通寺」）



第2図 遺構検出土状況



第3図 遺物出土状況

まえたに こ ふん かみかわ い い せき
前谷古墳・上川井遺跡

1. 所在地 綾歌郡飯山町上法軍寺字上川井
2. 調査主体 飯山町教育委員会
3. 調査期間 平成9年7月15日、7月17日
4. 調査面積 約150m²
5. 調査担当者 生涯学習課 佐岡人志
6. 調査指導 文化行政課 塩崎誠司
7. 調査の原因 団体営は場整備事業
(大窪谷地区)
8. 調査結果の概要

調査地は、大窪池の西側一帯に位置し、かつて小規模な古墳が数多く点在し、通称「万塚」とよばれた大規模な古墳群の北端部に位置する。記事業に伴い從来から知られていた「前谷古墳」の範囲確認及び未確認の埋蔵文化財包蔵地確認のために試掘調査を実施している。

調査の結果、前谷古墳の墳丘南側で設定したトレンチでは、後世の田畠造成等による削平が

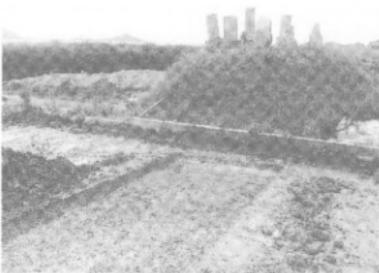
著しいものの、墳丘北側及び東側で幅1.8m、深さ27cmの周溝を検出した。出土遺物は6世紀代かと推定される須恵器小片1点のみで詳細な築造時期比定にまで至っていない。墳丘の規模は周溝の検出状況から直径約13mの円墳と推定される。一方、前谷古墳が位置する東側谷筋の両側で設定したトレンチでは一辺4~5mの方形周溝状遺構を2基検出している。主体部は既に消失しているものの、ともに1辺ほぼ中央部に陸橋を持つのが大きな特徴である。一部周溝内の掘削を行っているが、須恵器・土師器小片が少量出土したのみで、詳細な時期は不明であるが概ね古墳時代中~後期の小規模古墳の可能性が高い。

9.まとめ

今回の調査によって、從来から「万塚」と呼称されながらもその実態が不明であった古墳群の一端が明らかになった。万塚の中でも前谷古墳等の比較的大規模な古墳については、耕作等による削平を免れ残存し、上川井遺跡で検出したような小規模方墳が一帯に多数分布していたのがその実態であろう。ただ、今回の試掘調査では十分な時期比定を行えるような遺物は出土しなかったことから、万塚が形成されるに至る時期及び経緯については周辺部の本格的な調査が期待される。(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）
(A前谷古墳 B上川井遺跡)



第2図 周溝検出状況（前谷古墳）



第3図 方形周溝検出状況（上川井遺跡）